



表紙について

企業活動を通じて、社会への貢献を目指す竹田印刷グループの思いが、豊かな未来へとつながり成長する姿を、SDGsカラーの「大樹」で表しました。



印刷資材から製造工程までのすべてで環境に配慮されていることを示します。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。
※VOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds)



当社はFSC®CoC認証を取得しています。(ライセンスコードはFSC®-C011109)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような配慮や表示をしました。



国連グローバル・コンパクトの原則の実践状況および国連の様々な目標の支持について、このコミュニケーション・オン・プログレスを通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



竹田印刷は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

CSR TAKEDA REPORT 2020



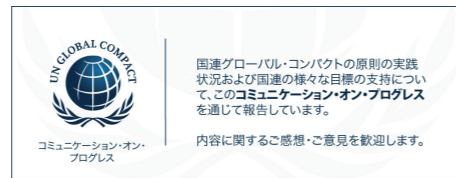
- 1 編集方針
- 2 会社概要
- 2 企業活動の基本的な考え方と事業活動
- 4 財務・非財務ハイライト
- 6 トップメッセージ
- 8 CSR活動の考え方と取り組み実績
- 10 「国連グローバル・コンパクト」 「SDGs」への取り組み
- 11 TOPICS
- 12 組織統治
コーポレート・ガバナンス
- 16 株主・投資家の皆様とともに
- 17 消費者課題
お客様とともに
- 20 労働慣行
社員とともに
- 24 人権
ダイバーシティとワーク・ライフ・バランス
- 27 公正な事業慣行
サプライヤーの皆様とともに
- 28 コミュニティ
地域社会とともに
- 29 環境
環境活動
マネジメントシステムの状況
環境保全の状況
- 31 環境保全活動の推進
- 32 事業活動における環境対応
- 33 第三者意見

掲載項目の確定プロセス

本レポートに掲載されている項目は、以下のプロセスで確定しました。

- STEP 1 推進メンバーの選出と活動の洗い出し**
各部門および事業部より推進メンバーを選出し、経営統括本部長をプロジェクトリーダーとする推進会議を発足。2019年度における当社のCSR活動の洗い出しを行いました。
- STEP 2 活動実績のリストアップ**
当社の外部および内部の状況や「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」※1の4分野10原則、GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」※2の開示項目、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」※3の目標を参考に活動実績のリストアップを行いました。
- STEP 3 掲載項目の選び出し**
推進メンバーが収集した2019年度の活動実績および国連グローバル・コンパクトの原則、GRIスタンダードの開示項目、SDGsの目標の中から、当社にとって重要と思われる事項を選び出しました。
- STEP 4 掲載項目の決定**
CSRレポート2020プロジェクト推進会議において、推進メンバーの合意を得て、掲載項目を決定しました。

※1：国連グローバル・コンパクト(UNGC)
国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組み。



※2：GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」
GRI(Global Reporting Initiative)は、組織の非財務情報の報告に関する国際基準を策定するNGO。「GRIスタンダード」は、経済、環境、社会に与えるインパクトなどの報告に利用する基準指標。

※3：SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」
ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標。



編集方針

本レポートは、竹田印刷における2019年度のCSRに関する取り組みを、より多くのステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えし、ご理解いただくために制作・発行いたしました。

当社の基幹事業である印刷事業は、デジタル化の進展やメディアの多様化により取り巻く環境が大きく変化してきています。こうした中、竹田印刷は2019年4月に国連が提唱

する「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」の取り組みに賛同し署名しました。企業の社会的責任を果たすと同時に、社会の持続可能な発展に向けて、今まで以上に活動を推進してまいります。

是非、ステークホルダーの皆様方にご一読いただきますとともに、添付のアンケート用紙をご利用いただき、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

紙面の構成

- 各項目のトピラにあるアイコンは、それぞれの項目に関連したSDGsの目標を示しています。
- 見出しにある番号は、その本文に関連したSDGsのターゲットを示しています。
- ESG※4への取り組みはページ上部の色帯で示しています。

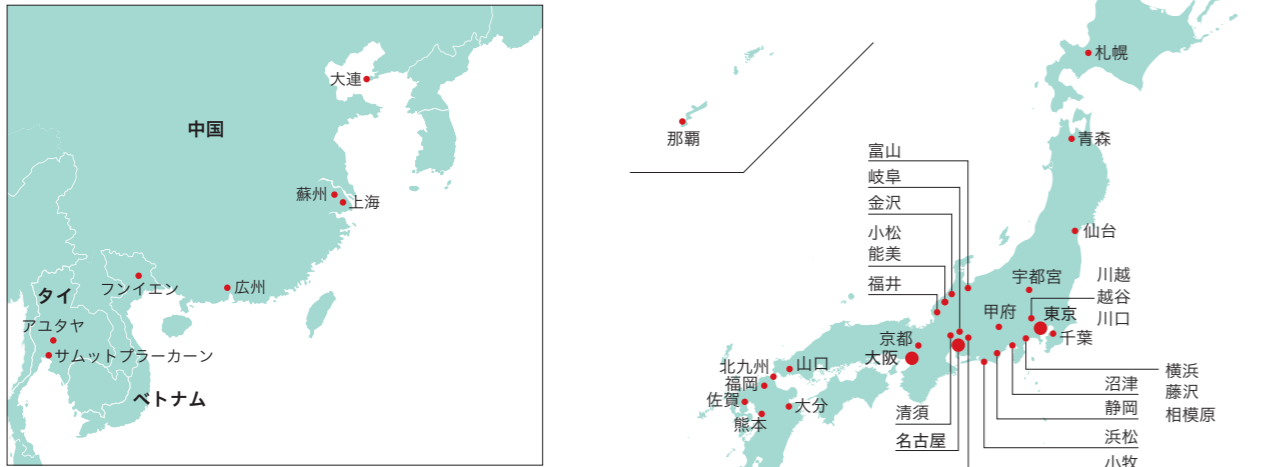
※4：ESG
ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもの。企業経営や成長において、各々の観点を持った上での配慮が必要だという考え方。

- 報告対象組織
竹田印刷株式会社
(一部、竹田印刷グループの情報も含まれています。)
- 報告対象期間
2019年4月1日～2020年3月31日
(一部、期間外の情報も含まれています。)
- 参考にしたガイドライン
国連グローバル・コンパクト(UNGC)
SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」
GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」
ISO26000(社会的責任に関する手引)
- 発行時期
2020年6月(前回発行 2019年6月 毎年発行)
- お問合せ先
竹田印刷株式会社
経営統括本部 総務部
TEL：052-871-6351

- 免責事項
本レポートには、竹田印刷および竹田印刷グループの過去と現在の事実だけでなく、公開日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

- ※本レポートは、「IRイベント」「株主総会」「会社説明会」などで配布するほか、当社ホームページでも閲覧できます。
- ※本レポートで、当社活動の中で重要と思われる部分については、前年からの修正再記述となっています。
- ※当社に関する情報は、本レポートのほか以下のWebサイトで閲覧できます。
- ▼ ホームページ
<https://www.takeda-prn.co.jp/>
- ▼ 決算短信
<https://www.takeda-prn.co.jp/investor/letter/>
- ▼ 事業報告書
<https://www.takeda-prn.co.jp/investor/report/>

竹田印刷グループネットワーク



会社概要

社名 竹田印刷株式会社
(英訳名 TAKEDA PRINTING CO., LTD.)
本社 名古屋市昭和区白金一丁目11番10号
創業年月 1924年(大正13年)1月
設立年月日 1946年(昭和21年)11月16日
資本金 19億3,792万円
社員数 572名(連結1,053名)
(2020年3月31日現在)
※役員、臨時社員を含めず記載しています。
株式上市 東京証券取引所市場第二部 [証券コード 7875]
名古屋証券取引所市場第二部
単元株式数 100株
決算期 3月31日

事業所

[本社・中部事業部] 本社工場 スタジオACE1 高社工場 小牧物流センター 物流センター	[関東事業部] 越谷工場 鳩ヶ谷物流センター	[関西事業部] 太田工場 PODセンター(第二ビル) [ファインプロセス事業部] テクノセンター
--	--------------------------------	--

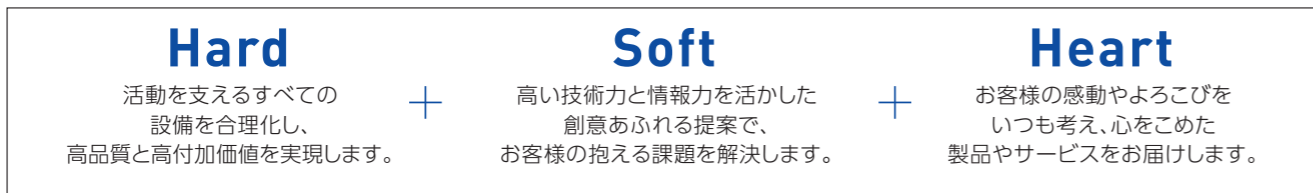
竹田印刷グループ

株式会社光文堂 東海プリントメディア株式会社 株式会社プロセス・ラボ・ミクロン 東京プロセスサービス株式会社 日栄印刷紙工株式会社 株式会社光風企画 株式会社ウィルジャパン	株式会社トープロケミカル 上海竹田包装印務技術有限公司 PROCESS LAB.MICRON VIETNAM CO., LTD. TOKYO PROCESS SERVICE (Thailand) CO., LTD. 大連光華軟件技術有限公司 富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司 TAKEDA PRINTING (Thailand) CO., LTD.
--	--

主な加入団体

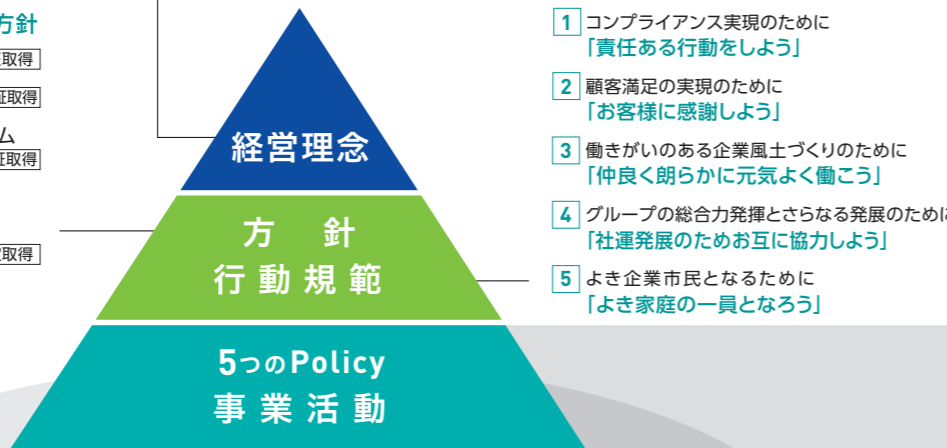
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 公益社団法人 日本印刷技術協会 一般社団法人 中部経済連合会 中部経済同友会	一般社団法人 中部産業連盟 一般財団法人 中部生産性本部 名古屋商工会議所
---	---

企業活動の基本的な考え方と事業活動



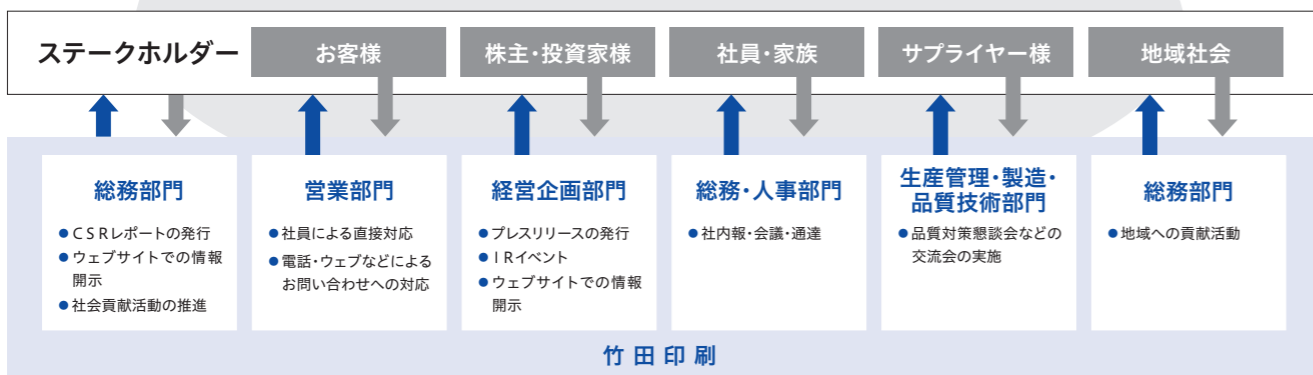
TMS (竹田マネジメントシステム) 基本方針
品質マネジメントシステム [ISO9001認証取得]
環境マネジメントシステム [ISO14001認証取得]
情報セキュリティマネジメントシステム [ISO27001認証取得]

個人情報保護方針
個人情報保護マネジメントシステム [JIS Q15001認定取得]



- 1 コンプライアンス実現のために「責任ある行動をしよう」
- 2 顧客満足の実現のために「お客様に感謝しよう」
- 3 働きがいのある企業風土づくりのために「仲良く朗らかに元気よく働こう」
- 4 グループの総合力発揮とさらなる発展のために「社運発展のためお互いに協力しよう」
- 5 よき企業市民となるために「よき家庭の一員となろう」

ステークホルダーとのコミュニケーション体制



事業活動を支える5つのPolicy

- 1 お客様のさらにその先を見据えた提案
- 2 お客様のご要望を実現する柔軟性
- 3 本当に満足していただくためのアフターサポート
- 4 常に最高のクオリティを求める品質
- 5 「ベストバランス」を実現するコストパフォーマンス

事業活動

多様なニーズに対応する印刷事業

- 商業印刷
ポスター、カタログ、パンフレット、チラシ、会社案内、社内報、事業報告書など [竹田印刷株式会社(印刷部門)]
- 出版印刷
雑誌、書籍、参考書など [竹田印刷株式会社(印刷部門)]
- 一般印刷
ビジネスフォーム印刷、事務用品印刷、包装資材印刷 [竹田印刷株式会社(印刷部門)]
- 日刊新聞の印刷およびこれに付随する業務 [東海プリントメディア株式会社]
- パッケージ印刷・ラベル・シール印刷など [日栄印刷紙工株式会社]
- プランニング・コピーライティング・デザイン・撮影・DTP・CD-ROM・WEBコンテンツ制作・マスメディア広告代理業務 [株式会社光風企画]
- 中国における包装用印刷物の企画・販売 [上海竹田包装印務技術有限公司]
- 中国における印刷物のデザイン・制作・半導体関連マスクの設計 [大連光華軟件技術有限公司]
- 包装用資材および印刷物の企画・製造・販売 [TAKEDA PRINTING (Thailand) CO., LTD.]

高精細製版技術を応用した半導体関連マスク事業

- 半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および機械機器類の販売 [竹田印刷株式会社(半導体関連マスク部門)]
- 電子部品実装用各種マスクの製造およびこれに付随する業務 [株式会社プロセス・ラボ・ミクロン]
- 電子部品等向けの精密工業用写真製版(スクリーンマスク、フォトマスク)の製造販売 [東京プロセスサービス株式会社]
- 感光性樹脂および同関連の薬品、材料の製造・加工・販売など [株式会社トープロケミカル]
- ベトナムにおけるメタルマスクの製造販売など [PROCESS LAB. MICRON VIETNAM CO., LTD.]
- 精密工業写真製版、スクリーン製版および製版用資材の製造販売 [TOKYO PROCESS SERVICE (Thailand) CO., LTD.]
- 中国におけるメタルマスクなどの設計・製造など [富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司]

潜在的なニーズを見据えた拡印刷事業

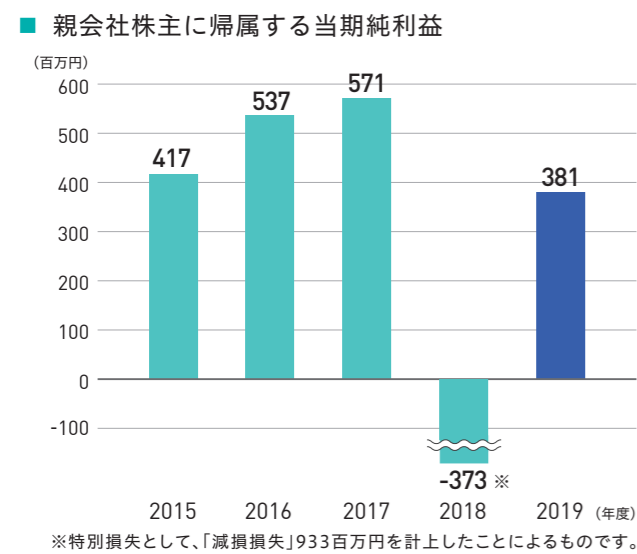
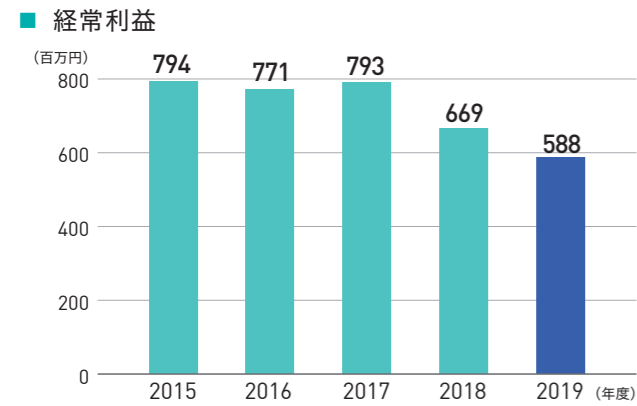
- 文具・日用雑貨などのネット通販 [竹田印刷株式会社(ソリューション部門)]
- 広告宣伝物のロジスティクス [竹田印刷株式会社(ソリューション部門)]

大型印刷機から雑貨まで物販事業

- 製版機械・印刷機械・製本機械・印刷用資材・製版用資材の販売 [株式会社光文堂]
- 日用雑貨・事務用品および事務用機器等の企画開発・販売並びに輸出入業務など [株式会社ウィルジャパン]



財務(連結)

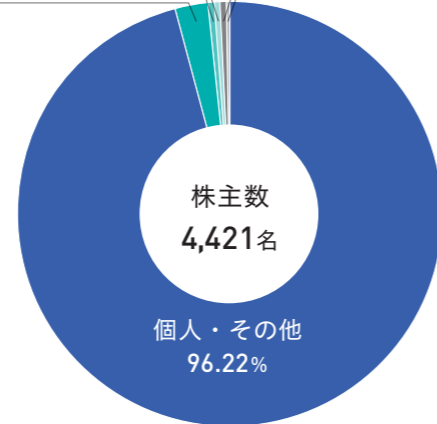


株式

発行可能株式総数 29,592,000株
発行株式総数 8,781,000株(自己株式651,746株を含む)
株主数 4,421名

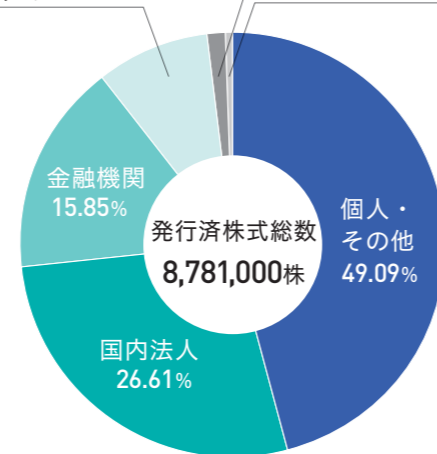
■ 所有者別 株主数割合

証券会社 0.38% 外国人 0.43%
金融機関 0.39% 自己名義株式 0.02%
国内法人 2.56%

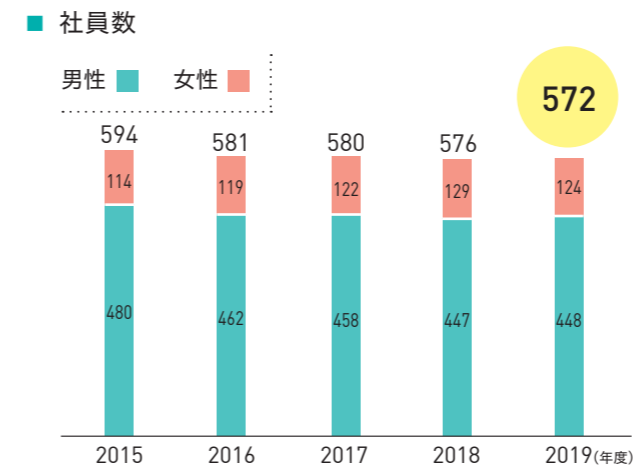


■ 所有者別 株式数割合

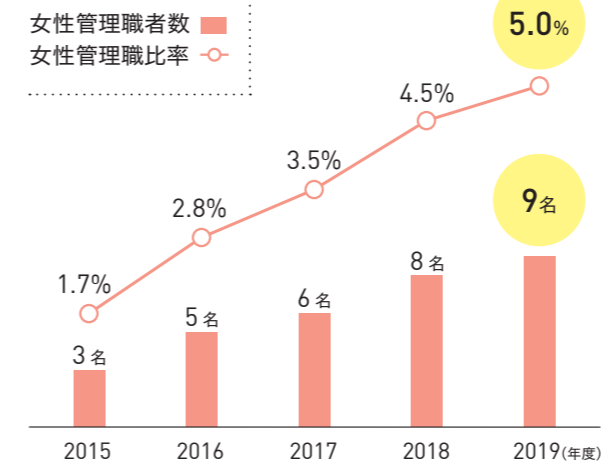
自己株式 7.42% 外国人 0.71%
証券会社 0.32%



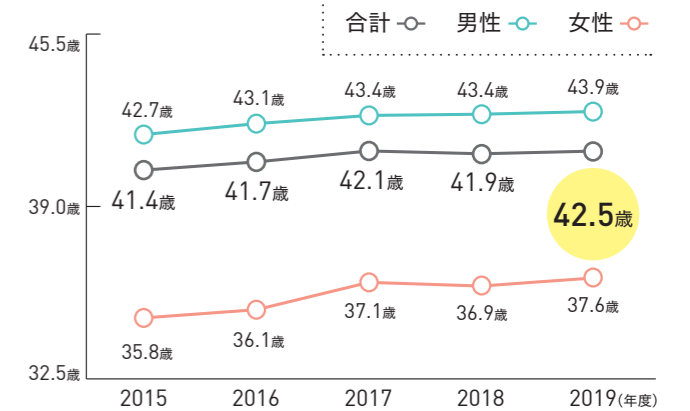
人材



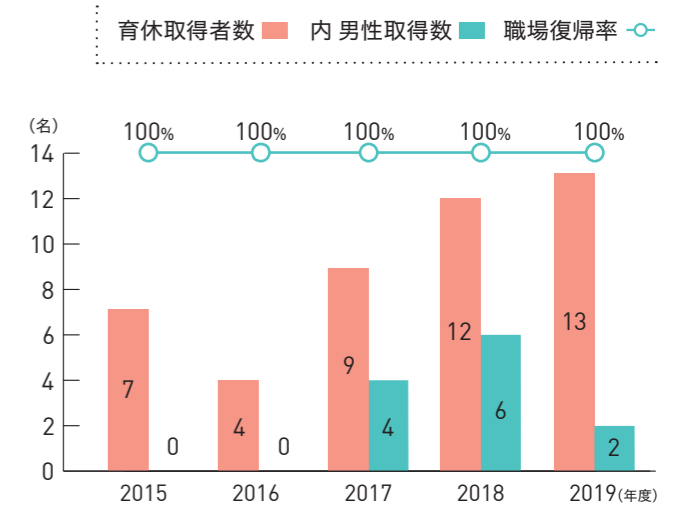
■ 女性管理職者数と女性管理職比率



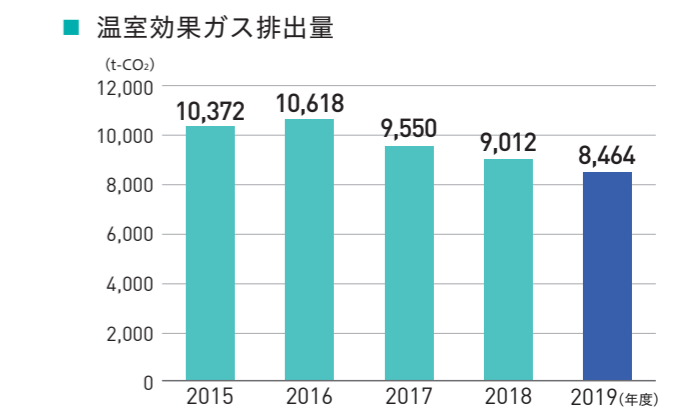
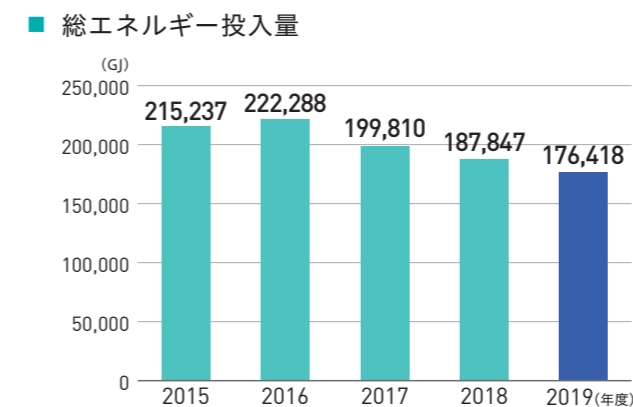
■ 平均年齢



■ 育休取得者数と職場復帰状況



環境



※業績に関する詳しい内容は、弊社ホームページの決算短信 (<https://www.takeda-prn.co.jp/investor/letter/>)、事業報告書 (<https://www.takeda-prn.co.jp/investor/report/>)に掲載しています。

TOP MESSAGE

トップメッセージ

経営理念「Hard+Soft+Heart」で 持続的成長を目指します。

竹田印刷は2019年4月に、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」の取り組みに賛同し署名いたしました。企業の社会的責任を果たすと共に、社会の持続可能な発展に向けて、今まで以上に活動を推進してまいります。



代表取締役会長 山本 真一

代表取締役社長 本全 幸治

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々やそのご家族、不安のなかにおられる方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

2020年1月末以降、コロナ禍による経済活動停止のため、温室効果ガス排出量は一時的に減少していますが、2019年は気候変動対策に世界的な意識と注目が高まった年でした。

世界は気候危機の原因とされる地球温暖化への対策として、脱炭素社会に向けて大きく舵を切り、持続可能な社会への移行を目指しています。

竹田印刷グループは、こうした持続的成長のための重要なテーマとしてESG(環境・社会・ガバナンス)に対する取り組みが不可欠であると認識しております。

持続可能な社会の実現を目指して

2019年6月、大阪でG20サミットが開催され、地球環境汚染に関する議論が行われました。環境問題に

対する各企業の取り組みは、社会全体から注目されており、竹田印刷グループもこれらの変化に適応するために、経営理念である「Hard+Soft+Heart」と将来を見据えたサステナビリティ上の重要課題を融合させながら、持続的成長を目指してまいります。

お客様のビジネスパートナーとして

竹田印刷は2024年3月期に創業100周年を迎えます。1924年(大正13年)の創業以来、「Hard+Soft+Heart」でお客様満足度No.1企業を目指すという経営理念に従い、事業を展開してまいりました。この経営理念には、常にお客様の満足を追求する竹田印刷グループの意志が込められています。時代と共に進化し続けるHardとSoftを、Heartを込めてお客様にお届けする。この経営理念を大切に守り続けることが持続的成長に繋がると考えています。

そして「お客様の圧倒的サポートを得るワンストップソリューションを提供し、ロイヤルカスタマー比率を

高め続ける」という長期ビジョンを実現させるため、お客様に価値が高いと感じていただけるつなぎ目のないソリューションをご提供し、お客様から真っ先にお声がけいただける「ファーストコールカンパニー」でありたいと思います。

生産性と生活の質向上の 両立を目指す

当社は、2016年度より「全社員総活躍」プロジェクトを立ち上げ、全ての社員がいきいきと活躍できることを目指してまいりました。

それ以降、長時間労働の削減や、仕事とプライベートの両立支援制度の拡充、女性活躍、社員の能力開発支援を推進して多くの成果を得ることができ、多様な考えを持つ社員が柔軟な働き方で活躍できる土台が整ってきたと考えております。

そして、2019年度より「全社員総活躍」の理念は継承しながらも、新たに働き方改革にも取り組むこと

で、生産性と生活の質向上の両立を目指す新プロジェクト「TAKE UPプロジェクト」を発足いたしました。両立支援に加え、スマートワーク推進、業務変革、社員の働きに応じた人事制度の見直しなど、前向きにチャレンジする社員が働きやすくなる環境づくりを行うものです。会社の成長を支えるのは人です。すべての社員が「竹田印刷で働いて良かった」と思うことができる会社づくりを実現させる。そして会社自体もさらなる成長・発展できるよう、今後も継続的に取り組んでまいります。

最後に、竹田印刷は国連グローバル・コンパクトの署名企業として「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を支持し、人々や社会へのマイナスの影響を最小化するあらゆる努力と、不正を許容しない企業風土の浸透を推進することをお約束いたします。

今後とも、竹田印刷グループに対し、引き続きご指導ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

TMS (竹田マネジメントシステム) の基本的な考え方

竹田印刷では2016年4月より、ISOの3つの規格9001(品質)、14001(環境)、27001(情報セキュリティ)およびJIS Q15001(個人情報保護)のマネジメントシステムを統括して、TMS(竹田マネジメントシステム)として運用をスタートしました。

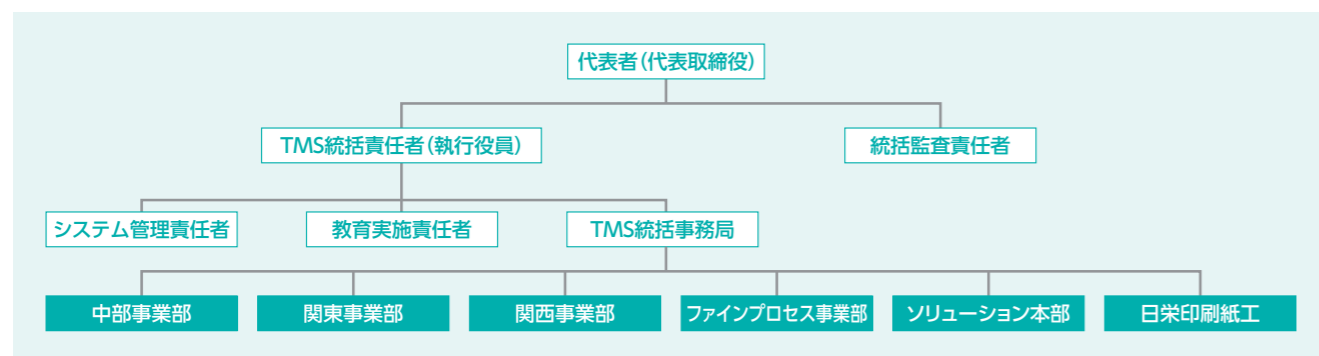
中部・関東・関西の3地区を6つのブロックに分割し、各ブロック単独でもマネジメントシステムが運用できる組織体制を構築しています。

統括責任者の下、毎月開催される全体統括会議において、各ブロックおよび各責任者からの報告を行い、運用・管理しています。また、定期的に代表者によるレビューを実施し、継続的な改善を行っています。

マネジメントシステムの認証取得状況

適合規格	ISO 9001:2015	ISO 14001:2015	ISO 27001:2013	プライバシーマーク
認証取得日	1999年11月	2000年12月	2015年10月	2005年11月
認証登録番号	07965-A	07965-B	10553	19000167(08)
認証機関	インターテック・サーティフィケーション株式会社			一般社団法人 中部産業連盟
認証登録範囲	本社・本社工場、中部事業部 高辻工場、中部事業部 テクノセンター、中部事業部 物流センター、中部事業部 小牧物流センター、関東事業部、関東事業部 越谷工場、関東事業部 鳩ヶ谷物流センター、関西事業部、関西事業部 太田工場、日栄印刷紙工 本社・本社工場			全社
認証登録業務	商業用・出版用印刷物の企画・デザイン、印刷及び営業業務、ソフト関係(ホームページ及びCD-ROM等)の企画・制作・製造及び営業業務、半導体向けフィルム・ガラス乾板・スクリーンマスクの設計・製造及び営業業務			全業務
認証取得割合	100%	100%	100%	100%

2020年度 TMS(竹田マネジメントシステム) 組織体制図



竹田マネジメントシステム基本方針

私たちは、品質、環境、情報セキュリティの活動に対し、竹田マネジメントシステムを確立し、企業活動を通じて社会への貢献を目指します。

a 品質

いつもお客様の立場から企画・提案を考え、独自の手法で品質の向上並びにミスの削減に努め、お客様の期待に応えるファーストコールカンパニーを目指します。

b 環境

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含め環境保全意識の向上を図り、環境への負荷を減らす取り組みを積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

c 情報セキュリティ

適用範囲の全ての情報資産を脅威から保護するため、マネジメントシステムを確立し、その導入、運用、監視、見直しを実施することでリスクを適切に管理します。

d 教育・訓練

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に対して教育・訓練を定期的に行い、すべての人々がレベルアップに取り組み、お客様をはじめ利害関係者の信頼に繋がります。

e 順守

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々は、関連する法規制、業界規範及び、お客様の要求事項を順守し、本方針を維持するために策定された手順に従い、行動規範とルールを守ります。

f 継続的改善

重大な障害または災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをいたします。また、適宜、環境の変化に応じた見直しを実施し、維持及び継続的に改善を行います。

g 周知

本方針を文書化し、啓発活動を行い、竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に周知するとともに社内外に公表します。

2019年4月1日
代表取締役社長 木全 幸治

2019年度 TMS マネジメントプログラム(主な取り組みと実績)

ESG	ISO26000	SDGs目標	目的・目標	実施項目と実績(●=実施項目、■=実績)	掲載ページ
ガバナンス	組織統治	4 公正な取引関係 10 気候変動 16 平和と公正	法規制の順守	● 法規制一覧の順守/各部署で該当する法規制を特定し法律違反をしない ■ 法律違反は発生しなかった	P.13
			個人情報の保護、各種教育	● マネジメントシステム、情報セキュリティ、個人情報保護などの教育を計画的に実施する ■ 年度教育計画どおりに、毎月従業員への教育を実施し、効果を確認することができた	P.15 P.29
社会活動	消費者課題	9 産業と労働者の安全と健康 12 持続可能な消費と生産 17 パートナーシップ	顧客価値の増大化	● 顧客価値を増大することで、会社方針を達成する/マネジメントレビューに基づく継続的改善を行う ■ お客様満足度アンケートの結果をフィードバックしてさらなる改善につなげた	P.17
			サービスの提案	● 必要になる作業を1カ所ですべて完了することができるサービスなどをお客様へ提案する ■ 新たなサービスの事例紹介をし、お客様満足度アップに取り組んだ	P.17
			不適合・苦情件数の前年半減	● 昨年度発生した品質不適合・苦情件数を半減し、品質管理を徹底する ■ 不適合の発生件数を半減させる目標は達成できなかった	P.18
			流出不適合品の削減	● お客様への不適合品の流出を止める ■ 不適合品の流出を削減させる目標は達成できなかった	P.18
	労働慣行	3 健全な労働環境 4 公正な取引関係 5 性別平等 7 持続可能な都市とコミュニティ 8 豊かになりつつある社会 16 平和と公正	改善提案	● 自分の担当業務や組織の業務がより効率的・効果的に進み、よい結果が出るように改善する ■ 全社で目標件数の117%を達成できた	P.20
			健康経営	● 経営的な視点から従業員の健康管理を行う ■ 健康診断・ストレスチェックを実施し、多能工の促進などで残業時間の削減にも取り組んだ	P.22
			職場の安全環境の改善	● 安全衛生リスクアセスメントにより安全衛生を妨げる要因を特定し、5Sパトロールで予防する ■ 労災事故を0件にする目標は達成できなかった	P.22 P.23
			交通安全	● 春・秋の交通安全活動への参加で、交通事故を削減する ■ ほとんどの部署で無事故を達成することができた	P.23
			ノー残業デーの実施	● ノー残業デーを計画的に実施することで時間外労働を減らす ■ ほとんどの部署で目標を達成することができた	P.25
			スマートワークの推進	● 業務の生産性を高め効率よく仕事をする/多様な働き方を認めて個人の能力を最大化する ■ テレワーク勤務規程の新設、業務フローの見直しで、生産性の向上を目指した	P.25
環境活動	環境	6 清潔なエネルギー 7 持続可能な都市とコミュニティ 8 豊かになりつつある社会 9 産業と労働者の安全と健康 12 持続可能な消費と生産 15 陸の豊かさ	公正な事業慣行	● 外部委託先(協力会社)のパトロールにより、品質管理および情報漏えいリスクを低減させる ■ 外部委託先の品質管理と共に著作権保護の順守を徹底した	P.27
			コミュニティ	周辺清掃ほか	● 周辺清掃の実施で地域社会へ貢献する/クリーンアップ作戦 ■ ほとんどの部署で目標を達成することができた
環境活動	環境	6 清潔なエネルギー 7 持続可能な都市とコミュニティ 8 豊かになりつつある社会 9 産業と労働者の安全と健康 12 持続可能な消費と生産 15 陸の豊かさ	資源の再利用、再資源化	● 循環型社会を目指し、リデュース・リユース・リサイクルを推進する ■ 節電・分別廃棄や照明のLED化を進め、ほとんどの部署で目標を達成することができた	P.30
			環境提案の推進	● 環境に良い資材やプロセスの利用を推進する ■ 環境に配慮した活動を行うとともに、在庫の削減にも取り組んだ	P.32

国連グローバル・コンパクトへ参加

竹田印刷は、地域・社会・地球環境との調和を大切にするため、2019年4月に「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する自主行動原則を掲げる「国連グローバル・コンパクト」に署名すると共にグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ加入しました。

今後、当社は「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる国連グローバル・コンパクト10原則を尊重し、持続可能な開発目標(SDGs)を推進していきます。



国連グローバル・コンパクトの参加証明書

国連グローバル・コンパクト4分野10原則

 人権	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 2. 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。 	 環境	<ol style="list-style-type: none"> 7. 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 8. 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 9. 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
 労働	<ol style="list-style-type: none"> 3. 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、 4. あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 5. 児童労働の実効的な廃止を支持し、 6. 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。 	 腐敗防止	<ol style="list-style-type: none"> 10. 企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

「国連グローバル・コンパクト」「SDGs」の社内啓蒙活動

コンパクトガイドの発行

竹田印刷では、行動規範、個人情報保護方針、竹田マネジメントシステム基本方針、緊急事態発生時の連絡先などが記載されたコンパクトガイドを作成し、全社員が社員証と共に携帯していました。今回、国連グローバル・コンパクトへの参加を機に、国連グローバル・コンパクトおよびSDGsの情報を組み入れて新たに作成し全社員へ配布しました。



SDGs勉強会の開催

SDGsとは何か、いかに企業がSDGsを有効活用できるかといったSDGコンパスの内容から、当社の経営理念に基づくSDGs活動の具体的な取り組み、国連グローバル・コンパクトとの関連などについて全社員に対し勉強会を実施しました。それと同時に、新たに配布したコンパクトガイドの内容を解説し、竹田印刷グループの企業理念・事業活動と国連グローバル・コンパクトおよびSDGsとの関連を共有しました。

また、勉強会后に理解度確認テストを行い、勉強会の効果の確認を行いました。

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンでの活動

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ加入することで、約350の企業・団体の会員とのつながりを持つことができました。また、参加企業のCSR活動推進を目的としたテーマごとの分科会があり、2019年度は「GCの社内浸透研究分科会」、「関西分科会」、「SDGs分科会」、「WEPS

分科会」に参加しました。分科会では、有識者の講演会によるCSR関連の最新動向や各社の事例を共有すると同時に、参加企業各社の幅広い業界における経験を基に、様々な企業のCSR推進を支援する各種アウトプットの製作に取り組んでいます。

01 タイへ事業進出

2020年1月、竹田印刷は、タイのサムットプラカーン県に、包装用資材および印刷物の企画・製造・販売を行う「TAKEDA PRINTING(Thailand) CO., LTD.」を設立。グループ会社の東京プロセスサービスは、タイのアユタヤ県に、精密工業写真製版、スクリーン製版および製版用資材の製造販売を行う「TOKYO PROCESS SERVICE(Thailand) CO., LTD.」を設立しました。

竹田印刷グループの海外事業は、これまで主に中国を中心として展開してきましたが、昨今はお客様のアセアン地域への事業拡大が進んでいます。このようなお客様の生産地域の分散化をビジネスチャンスと捉え、生産体制を整えるために関係会社を設立しました。



02 本社工場・越谷工場に「新型デジタル印刷機」を導入

本社工場と越谷工場に最新のデジタル印刷機を新設し、2019年12月より稼働を始まりました。本社工場の機種は金・銀トナーを駆使したメタリックカラーの表現が可能で、より付加価値の高い印刷物を提供できるようになりました。

昨今は、お客様のニーズの多様化により多品種小ロット生産のご依頼が増えてきています。従来の印刷機ではこうしたご依頼には時間がかかり、品質維持が難しいという面がありましたが、今では「デジタル印刷機」を駆使することで、高品質・短納期を可能にしました。



本社工場

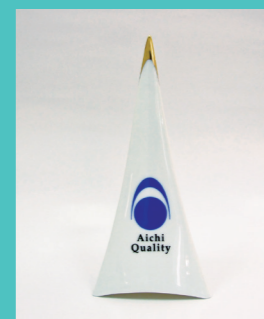


越谷工場

03 愛知ブランド企業に認定

竹田印刷は、「優れた理念、トップのリーダーシップの下、業務プロセスの革新を進め、独自の強みを発揮し、環境に配慮しつつ、顧客起点のブランド価値などの構築による顧客価値を形成している製造企業」として認められ、愛知県より「愛知ブランド企業」に認定されました。[認定番号 1509]

今後も愛知ブランド認定企業として、より一層独自の強みに磨きをかけ、当社ならではの価値をお客様に提供できるよう取り組んでまいります。



瀬戸の白磁で作られた認定記念品



組織統治

コーポレート・ガバナンス



企業の社会的責任を果たし持続的に成長するため、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行、法令順守と倫理の確保などに向けて組織管理体制の整備に取り組んでいます。また、コーポレートガバナンス・コードの各原則を竹田印刷の実状に即して対応し、実効性の高いガバナンス体制の実現に取り組んでいます。

取締役会、役員体制

16.7

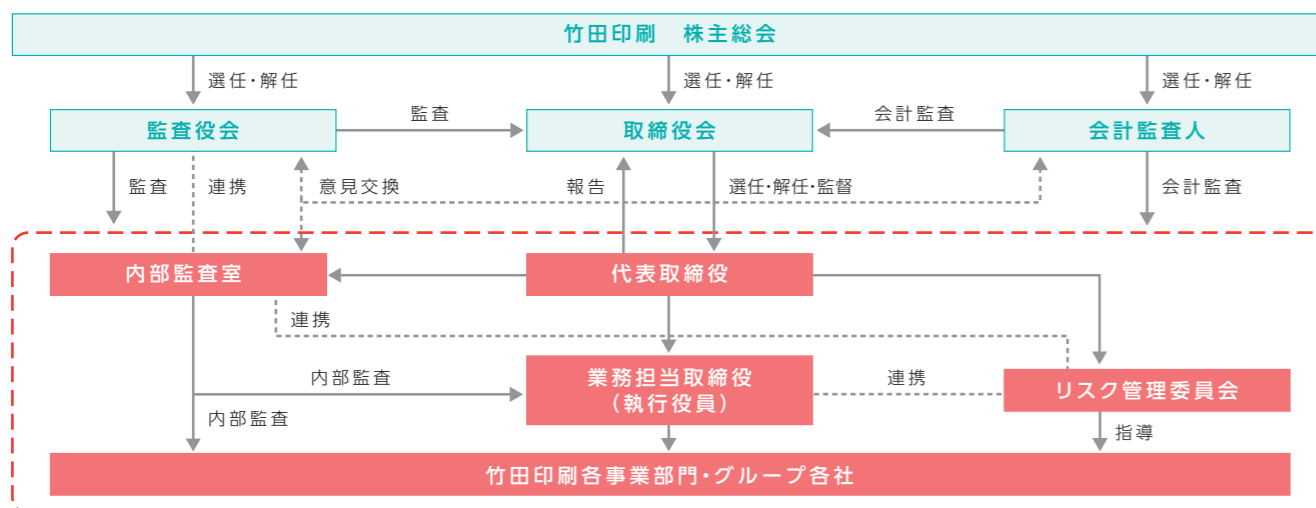
竹田印刷の取締役会は社内取締役9名、社外取締役2名(2020年3月末時点)で構成されています。取締役の任期は1年で、代表取締役社長が取締役会の議長となります。

社外取締役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員の要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより、公正な経営監視機能の実現を図っています。

定時取締役会ほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督などを行っています。業務運営に関しては、グループ全体の中期経営計画および年度計画に基づき、各社が年度予算を策定し、進捗状況の確認をしています。

また当社では、執行役員制度を採用しています。さらに、主要グループ会社の代表取締役を主なメンバーとするグループ会社連絡会を原則月1回開催し、適宜経営状況のモニタリングを行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



16.5

内部統制システム

「内部統制システムの基本方針」、「財務報告にかかる内部統制の方針」に従い、適正な業務遂行の実現を図るため、全社統制・業務処理統制の仕組みの文書化、リスクの統括的な管理体制、情報セキュリティ体制などを整備・確立し、厳格に運用しています。

監査役、監査体制

16.5

竹田印刷では、監査役3名(2020年3月末時点)のうち半数以上である2名の社外監査役を置き、取締役会の職務執行について監査しています。

社外監査役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員の要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより監査役会の独立性と、公正な経営監視機能の実現を図っています。

さらに社長直轄の内部監査室(2020年3月末時点専従者2名)は、各事業部門の業務処理の適切性を定期的に監査しており、監査役会と連携しながらコンプライアンスの徹底を図っています。

役員に関する情報(役員報酬や選解任の決定プロセスなど、コーポレート・ガバナンスコードへの対応を含む)については、有価証券報告書やコーポレート・ガバナンス報告書に記載しています。

コンプライアンス

「竹田印刷グループ行動規範」の制定、コンプライアンスに関する研修の継続的な実施などにより、全社的にコンプライアンス(法令順守)に対する意識の向上、浸透を図っています。「竹田印刷グループ行動規範」は、当社の社訓をより具体的な行動指針として明文化した内容となっており、当社グループの全社員に配付しています。行動規範の順守により、コンプライアンスの徹底、顧客満足の実現、人権の尊重、社運の発展、よき企業市民であり続けることなど、社員一人ひとりのとるべき行動を明確にしています。

そして、下請代金支払遅延等防止法(下請法)や著作権法などの各種法令に抵触しないよう社員研修を行い、違法行為の未然防止を図っています。

社員などから寄せられた法令違反行為などに関する相談または通報については、適正な処理の仕組みを定め、通報者は通報を行ったことを理由として不利益を受けることがないように保護されると共に、職場環境が悪化することのないように、適切な措置が執られます。

また、社員が職務に関して知りえた内部情報を利用して、株式などの売買やその他の取引を行うことを規制するため、内部情報の管理について順守すべき基本的事項を定め、未然防止を図っています。

さらに、反社会的勢力との関わりを一切排除するため、お客様やサプライヤーの皆様などとの間で各種契約書や覚書を取り交わしているほか、管理体制として「反社会的勢力対応規程」を定め、運用しています。

2019年度における各法規制違反は発生していません。

事業継続計画(BCP)への取り組み

災害などの発生時でも、社員およびその家族の安全を守り、迅速な復旧を図って重要業務を継続するために事業継続計画(BCP)を策定しています。

地震などの災害、感染症大流行、情報セキュリティ事故などを想定し、緊急対策本部組織や、復旧シナリオ、お客様ごとの対応ステップなどについて詳細で現実的な計画を定めているほか、災害時や緊急時で電話が繋がりにくい場合にも利用できるインターネットを介した社員の安否確認システムを導入し運用しています。安否確認システムは定期的に通信訓練を実施しています。

また、2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は想定していたものとは違い、グループにおける対応は臨機応変なものとなりました。すでに策定していた感染症の事業継続計画が実情にそぐわない部分もあったため、新たに「新型コロナウイルス編」を作成し、状況に応じた柔軟な対策を実施しました。

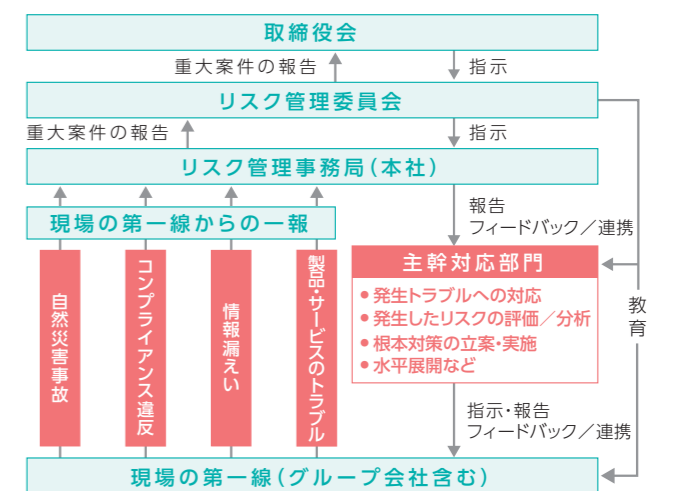
今後、感染症は長期化することが懸念されるため、感染の未然防止や発生した場合の対応について社員周知を図るなどの対策を継続していきます。

リスクマネジメント

「リスク管理規程」に基づき設置しているリスク管理委員会では、グループ全体のリスク(コンプライアンス、経営戦略、業務運営、環境、災害など)を網羅的・統括的に管理するとともに、「関係会社分科会」「営業分科会」「IT分科会」などの分科会を設けて、組織や業務内容により異なるリスクを洗い出し、低減する活動を行っています。

なお、経営に関連するリスクは有価証券報告書にも掲載しています。

リスクマネジメント体制図



新型コロナウイルス感染症予防に関する主な実施策

社員による予防

- 出勤前に検温し記録
- 毎日の行動を記録(接触者を含む)
- マスクの着用・手洗い・咳エチケットの徹底
- 不要不急の外出・出張の自粛(セミナー・懇親会・イベントなど)
- 私的に観光などの繁華性の高い場所へ行くことを控える
- 私的な飲食を伴う会合(送別・懇親会など)への参加を控える

社内における対応

- 全社朝礼の中止(社長動画メッセージを配信)
- 集会行事などの中止(勉強会なども含む)
- 25名以上の会議の自粛
- 定期的な室内換気(1~2時間ごと)
- 社員食堂では対面で座らない(会議室を食事場所として開放)
- 時差出勤・自動車通勤の実施
- テレワークの拡大(オンライン会議の活用)
- マスクの配布
- 小学校の臨時休校に伴う特別休暇の付与

情報セキュリティ

会社とすべての社員との間で採用時に個人情報および機密情報の守秘義務に関する誓約書を締結しており、社員に配付した「ITセキュリティハンドブック(第3版)」、標的型メール訓練や全社員向け教育などにより、情報セキュリティに対する社員の注意喚起に努めています。

さらに、ICカード社員証による入退室管理によって、オフィスエリアの物理的セキュリティを強化するなど、入退室の管理からサーバーやデータの管理まで、あらゆるシーンでのリスクを想定した対策が施されています。

また、竹田印刷は万全のセキュリティ体制が高い評価を受け、様々な守秘印刷物の受注実績があります。守秘印刷物の業務に携わる社員は最小人数に限定して作業に従事

し、関係者のみが入室でき監視カメラが設置されている機密エリアで作業を行っています。

守秘印刷物に関しては、原稿の受け取り方法から損紙の廃棄処理方法まで細部にわたる特別な作業手順を確実に実行するとともに、作業場の24時間監視カメラや通用口への警備員の配置など厳重なセキュリティ管理で、お客様の安心にお応えしています。

竹田印刷は企画・デザインから印刷・加工までのすべての工程で確実な情報保護をお約束するため、ISO27001の認証取得をしています。



情報セキュリティ対策

竹田印刷では、「その情報が事前に内部・外部に漏えいすることにより、お客様および第三者に著しい不利益を与えるもの」「お客様の秘密要請、機密契約により指定されるもの」を機密情報案件とし、定められた要領に従い機密情報の管理を行います。お客様からお預かりした個人情報や機密情報を安全かつ正確に管理するとともに、不正アクセス、情報の紛失・改ざんおよび漏えいなどの予防について万全な対策を講じています。

<p>物理的措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報や管理情報の取り扱いエリアと他の作業エリアを区分 ● 守衛の配置、施錠、指紋認証、IDカードなどによる入館・入室制限 ● ネックストラップの色分けによる来訪者の識別 ● 業務時間外や休日などは監視装置、警報装置などの不正侵入防御を実施 	<p>媒体管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 私物の電子記録装置を社内設備に接続することは禁止 ● 許可された管理デバイス以外はデータの書き込み不可に設定
<p>機器管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 無停電装置の設置およびバックアップの実施 ● 災害に強いデータセンターへのサーバー設置 ● ウイルス対策ソフトのインストールとパターンファイルの最新化を実施 ● 指定された以外のアプリケーションソフトのインストールを禁止 ● パスワードポリシーの強制適用と定期的な変更の実施 ● 離席時の画面ロックの実施 	<p>データの管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機密情報を取り扱う業務に従事する者を必要最小限に限定 ● 許可されたオンラインストレージサービスによる機密性を保持したデータ授受を実施 ● 個人情報のメールでの送信禁止 ● フォルダーへのアクセス権付与およびデータの暗号化 ● データへの操作ログの取得
<p>ネットワーク管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不正アクセスや情報漏えい防止対策を実施 ● DNSフィルタリングの導入 ● 外部から接続可能な領域と内部ネットワーク領域を分離 ● 閲覧制限およびアップロード制限の実施 ● リモートアクセスの禁止 ● Webメールおよびオンラインストレージの使用禁止 	

個人情報保護

竹田印刷は個人情報の保護を目的として「個人情報保護方針」を制定し、JIS Q 15001に基づく個人情報保護マネジメントシステムを構築・運用しています。お客様の大切な個人情報を守るために、様々な取り組みを行い、「プライバシーマーク」の付与認定を受けています。

取得した個人情報は保管期間を定め、登録・変更・削除・廃棄(消去)などについては、管理者の責任のもと適正に台帳管理されます。また、受託業務終了時には授受票による個人情報返却報告や個人情報処分証明書を提出しています。

日々の業務では、メールの誤送信を防ぐため、運用ルールによる対策だけでなく、システムによる対策として、「送信一時保留システム」および「添付ファイル暗号化システム」を導入するなどして、セキュリティ対策を複合的にを行っています。

2019年度における、お客様のプライバシー侵害やデータ紛失などに関連する事故は発生していません。



個人情報の利用目的について

個人情報の利用目的については、お客様から個人情報取り扱い業務を受託する場合および竹田印刷が個人情報を収集する場合、利用目的を特定し、その利用目的の範囲内で利用します。詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <https://www.takeda-prn.co.jp/csr/effort/tms/privacy/index.html>

個人情報保護方針

竹田印刷株式会社は、高度情報通信社会の一端を担っていることを自負し、主たる業務である印刷関連業務を通じて広く社会の発展に貢献することが最大の責務であると考えています。弊社は、個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに限らず全ての個人情報を適切に管理するために、個人情報に関わる方針を定め、個人情報保護に万全を尽くしてまいります。

- 1 個人情報の取り扱い**
個人に関する情報・個人番号及び特定個人情報(以下「個人情報」といいます)の取り扱いについて規定を定め、また、組織体制を整備し、個人情報の適切な保護に努めております。
- 2 個人情報の取得**
個人情報を取得させていただく場合は、取得目的、個人に対する弊社の窓口をお知らせしたうえで、必要な範囲で個人情報を取得させていただきます。
- 3 個人情報の提供**
弊社は、個人情報を利用目的の範囲内で利用するとともに、適切な方法で管理し、個人の承諾なく第三者に開示・提供することはありません(但し、法令の規定による場合や、個人及び公衆の生命・健康・財産などの重大な利益を保護するために必要な場合は除かせていただきます)。
- 4 個人情報の利用**
弊社は、個人情報について、厳正なる管理を行い、特定した利用目的の達成の範囲内で利用します。また、弊社が、個人情報の処理を外部へ委託する場合には、漏えい等を行わないよう契約により義務づけ、適切な管理を実施させていただきます。
- 5 個人情報の安全対策**
個人情報は、正確かつ最新の状態に保ち、個人情報の漏えい、滅失又はき損を防止するための措置を講じております。また別途「個人番号及び特定個人情報取扱規定」を定め、これを順守します。
- 6 個人情報に関する法令・規範の順守**
弊社が保有する個人情報に関して適用される法令、規範を順守します。
- 7 個人情報保護マネジメントシステムの継続的改善**
個人情報を適切に維持するため、個人情報保護マネジメントシステムを策定、運用し、運用状況について定期的に監査し、これを継続的に改善します。
- 8 個人情報の窓口**
弊社が保有する個人情報について、個人からの開示、訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止依頼を所定窓口にてお受けして誠意をもって対応いたします。また、個人情報に関する苦情についても同窓口にて誠意をもって対応いたします。

2003年5月1日 制定 2019年4月1日 改定
代表取締役社長 木全 幸治

知的財産に関する活動

竹田印刷は企画・デザインなどのクリエイティブを含めた企画提案型の営業活動を行っていますが、知的財産などの法的問題のない提案を行うことが必要不可欠です。第三者の知的財産の不正な入手・使用、権利の侵害を行わないよう「素材ダウンロードサービス利用マニュアル」を作成し、事前にチェックする仕組みを構築しました。社員および外部デザイナーに対して、運用ルールを説明し、知的財産権に対する注意喚起を行っています。



素材ダウンロードサービス利用マニュアル勉強会

組織統治

株主・投資家の皆様とともに



竹田印刷グループでは、適時適切な情報開示の重要性を認識し、関連法規に従って主体的・継続的なIR活動に取り組んでいます。IRイベントへ定期的に参加するなど、様々な場とメディアを利用して株主・投資家の皆様と対話を図り、当社の経営状況、成長戦略などについてプレゼンテーションをしています。

16.7

利益配分に関する基本方針

竹田印刷グループは、株主の皆様への安定的な配当を基本としながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案し、配当を決定しています。中間配当と期末配当の年2回の配当を基本方針とし、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会により決定します。

なお、2018年度の期末配当金は、1株につき普通配当8円(中間配当金8円を加えた年間16円)とする議案が2019年6月26日の定時株主総会において決議され、実施されました。

17.17

株主優待

竹田印刷グループは株主優待として、3月末日で100株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分を、1,000株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分に加えて、美術カレンダー「徳川美術館の名品」または「新潟県魚沼産コシヒカリ新米5kg」のどちらかを選んでいただきお届けしました。



3.4 4.6 11.3 17.17

IR活動

株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実を図るため、IRイベントへ積極的に出展しています。

2019年7月に開催された名証IRエキスポ2019(会場：名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)、主催：株式会社名古屋証券取引所)へ出展し、2019年12月には野村IR資産運用フェア2019(会場：ベルサール渋谷ガーデン、主催：野村インベスター・リレーションズ株式会社)に出展しました。ブース内における説明会を中心に、多くの投資家の皆様に、当社の現状と成長戦略などの将来の展望を積極的にアピールしました。

当社はこれらのIRイベントで、来場者の皆様からアンケート記入のご協力をいただいております。集計されたアンケート枚数に200円を乗じた金額(上限金額10万円)を義援金として寄付する活動を行っています。名証IRエキスポ2019では602枚で上限金額の10万円を名古屋市教育基金(子ども読書活動推進事業、小学校へのAED設置推進

事業など)へ寄付し、野村IR資産運用フェア2019では194枚で38,800円を令和元年台風第19号災害義援金として、日本赤十字社を通じて寄付しました。

今後も株主・投資家の皆様とのふれあいを大切にするとともに、社会貢献活動の一貫として義援金活動を継続してまいります。



野村IR資産運用フェア2019でのブース説明の様子
来場者の皆様に事業内容や今後の見通しについて説明しました

株主・投資家の皆様には適時開示情報を含めた有用な情報を当社Webサイトでも公開しています。
ホームページアドレス <https://www.takeda-prn.co.jp/investor/>



消費者課題

お客様とともに



竹田印刷は1924年(大正13年)の創業以来、「Hard + Soft + Heart」でお客様満足度No.1企業を目指すという経営理念に従い事業を展開してきました。ハード・ソフトとともに、社員全員が心(ハート)をこめて業務に取り組むことで、お客様、そしてお客様に関わるすべての人々にご満足いただけるものと考えています。

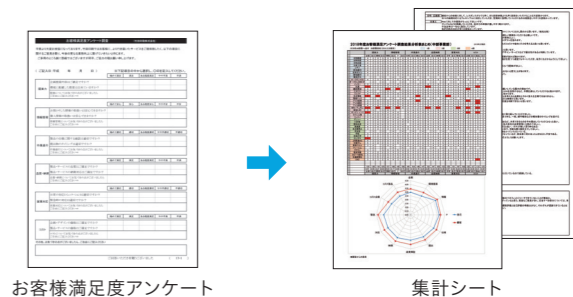
17.17

お客様満足向上のための継続的な改善

竹田印刷は、お客様満足の根本はお客様の抱える課題を解決することと考え、その基盤ともいべき製品・サービスの質の向上に万全を期しています。

お客様満足度アンケート

お客様のニーズを知るためにお客様満足度アンケートを実施し、お客様から直接いただいた貴重なご意見やご要望をTMS(竹田マネジメントシステム)の活動に組み入れ、さらなるお客様満足度向上に役立てています。



お客様満足度アンケート

集計シート

17.17

お客様のパートナー企業を目指して

竹田印刷は、「お客様から信頼されるパートナーとなること」を基本方針として、ご発注いただいた案件への真摯な対応はもちろん、それ以外の様々なご要望にもお応えしています。

ネット販売

竹田印刷は2011年6月から通販ビジネスを開始し、今では複数のネット店舗を運営、アイテム数も10万点を超えるまでになっています。基幹業務である印刷ビジネスと異なる事業は、今までお客様にご提供できなかった新しいソリューションサービスを生んでいます。

お客様のネット通販(EC)事業に関する各種ご相談対応やオリジナルノベルティのご提供など、お客様のお役に立てる活動を拡げています。



プラットフォーム開発

お客様とその先のユーザー様をつなぐビジネスプラットフォームを開発・運用しています。お客様の商品や販売促進物の受発注をオンラインで行い、ロジクスと事務局を掛け合わせることで運用までワンストップに受託し、お客様の業務効率化を支援しています。

今後も、お客様のニーズを基にアンケート機能やAIによる商品の需要予測機能などを追加し、より大きな価値を生み出す支援を計画しています。

パートナーシップ企業の勉強会に登壇

パートナーシップ企業であるリコージャパン様において、リコージャパン様の営業担当者向けに開催された勉強会に講師としてお招きいただきました。竹田印刷のコンテンツソリューション、特にVRコンテンツの制作実績と活用についてさまざまな制作事例を紹介し、双方のソリューションの理解を深める場となりました。

工場見学受け入れ

お客様の新入社員や新しく着任されたご担当者の研修として、製版工程や印刷・製本工程などの工場見学を受け入れています。

グリーンプリンティングの提供

竹田印刷では、本社工場、高辻工場の2工場が、総合的に環境に配慮する印刷工場として、グリーンプリンティングの認定を受けています。これらの工場で印刷された製品を調達することは、お客様がSDGsで目標としている「目標12: つくる責任 つかう責任」への取り組みにつながります。



組織統治

消費者課題

12.5

品質に関する基本的な考え方

竹田印刷ではISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため、継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の繁栄に貢献したいと考えています。

12.5

品質不適合発生時の対応

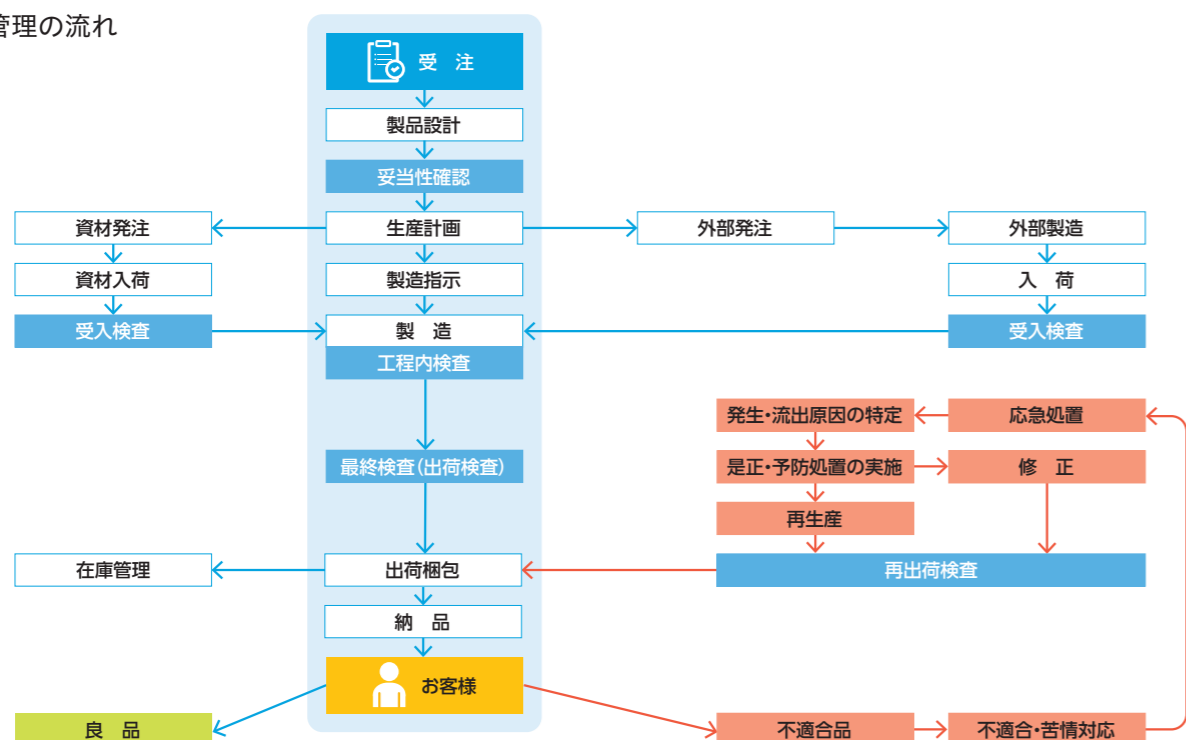
竹田印刷は、品質マネジメントシステムへの取り組みを通じ品質不適合の再発防止・未然防止に努めています。

品質不適合発生の際には「不適合及び緊急事態対応管理規定」に基づき①事実調査②原因の究明③影響範囲の特定④お客様への報告を行います。そして「是正処置規定」に基づき、不適合の再発防止や原因を除去するための是正処置を行っています。是正処置の実施状況は3ヶ月後に

フォローアップを行い効果の確認をしています。

また、品質不適合はお客様の信頼を失うだけでなく、手直し作業によるエネルギーの発生や廃棄物の発生の原因となります。当社では品質不適合の発生を未然に防止した社員を「ミス未然発見賞」として表彰し、品質意識向上につなげています。

品質管理の流れ



12.5

ISO9001 認証取得

竹田印刷は企画・設計から製造・納品までのすべての工程で継続的に安全で高品質な製品・サービスを提供するため、品質マネジメントシステムを構築・運用しています。品質目標は数値化して監視し、改善活動に取り組んでいます。



4.4

品質教育・品質会議

竹田印刷では、新入社員を対象にした基礎的な品質教育をはじめ、TMS(竹田マネジメントシステム)の年間教育計画に基づいた品質教育を行っています。また、小集団活動を通じた品質意識の向上や品質教育を継続することで、品質第一の風土の構築と維持を進めています。

経営者が参加している品質会議では、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげると共に、過去の不具合事例をデータベース化して再発防止に活用しています。

9.5

グループ会社間交流会

竹田印刷グループでは、グループ会社間の壁を超えて、シナジーを発揮するためにグループ会社間交流会を行っています。例えば、2019年度は竹田印刷と東京プロセスサービスが半導体関連マスク事業のスクリーンマスク工程の製造交流会を定期的に行いました。同じグループとはいえ、企業文化の異なる社員同士が刺激を与え合うことにより、交流やコミュニケーションによる技術力向上とスキルアップ、情報の共有化を図りました。



9.4 12.5

品質向上への取り組み

竹田印刷では最新の検査設備を導入し、厳しい製品検査を実施しているだけでなく、様々な方法で製品およびサービスの品質向上に取り組んでいます。

プリプレス部門

デジタル校正ソフトウェア(Proof Checker PRO)

編集データの訂正前後の照合に使用しています。文字列、フォント、文字サイズ、色調など訂正箇所を編集データ同士で比較し確認を行っています。

紙面比較検査システム(Hallmark Center)

確認が完了した編集データの出力紙と、試し刷りの印刷用データを比較し、差異の検出を行っています。これによりデータ変換による文字化けなどがなく確認しています。

デジタルデータ比較検査システム(Ken2Pa!)

試し刷りで訂正があった場合に、新版と旧版のデータを比較することにより、訂正箇所の確認を行っています。

カラーマッチングシステム(PRIMOJET SOFT-XG)

印刷機とインクジェット出力のカラーマッチングを行うことで、印刷工程とプリプレス工程の色の整合性を取り、品質を安定させます。

半導体関連マスク部門

超精密自動2次元座標測定装置

フォトマスクをサブミクロンの精度で寸法測定検査します。ステージ、クリーンチャンバーなど、高精度測定を実現するあらゆる技術を駆使し、フォトマスクの品質向上と品質保証を行い、安定品質製品を提供しています。

光学式自動外観検査装置(Auto Optical Inspection System)

独自の光学技術、画像処理機能、検査アルゴリズムを使用し、フォトマスクにおける極めて微細な欠陥を高速かつ高精度・確実に検出します。

印刷部門

品質管理装置

印刷紙面全体をスキャナで読み取り、前回の印刷物や色調原稿と比較した補正データを印刷機に送信することで、常に安定した品質の印刷物を提供します。

紙面検査機

印刷中の紙面を読み取り、表裏同時に全数を基準紙面と比較検査することで汚れや色ムラを検出します。

加工部門

製本検知器

中綴じ製本機ではCCDカメラにより、落丁、掛け落ち、鞍乗せ間違いの検知を行っています。また、厚さやズレ・タレ検査装置、針金検知器などにより不適合品の流出を防止しています。

ロジスティクス部門

コールセンターシステム(CTI)

スポット的な事務局需要にも柔軟に対応でき、お客様が通話を待っている待ち呼や切断された放棄呼のデータ収集や通話録音により、応対品質改善につなげています。また、2019年度より関東事業部にも同様のシステムを導入し、連携することでさらに柔軟な対応が可能となりました。

ハンディターミナル

バーコードや管理コードを読み取り、個人情報など重要な部分の照合作業に使用しています。目視確認による見逃し防止や作業スピードのアップにつなげています。

安全衛生管理自主点検表

通信販売では食品を扱うため、安全衛生管理自主点検表で毎日欠かさず健康状態をチェックしています。職場では怪我の未然防止と体調管理に努め、インフルエンザなどの感染予防の啓蒙を行っています。

労働慣行

社員とともに



社員が働きやすい環境と組織の整備を進めるとともに、様々な教育制度により社員の能力向上やキャリアアップを推進しています。また、福利厚生などの諸制度により社員や家族の生活をサポートすることで、社員が意欲を持って働き、健康で豊かな生活を送れるよう、ライフスタイルに合わせた制度を整えています。

4.4 5.1 7.3 8.5

社員を支える各種制度

人事評価制度

会社が社員各人に期待する役割を基準に、一人ひとりの能力や適性にふさわしいコース・等級を格付けし、これに基づき業務遂行、能力開発、人事評価を行っています。「MY JOBシート」と呼ばれる目標管理シートを各自が記入し、目標達成度に応じて昇給・昇格が行われます。また、年3回、上長と「MY JOB面談」を実施。目標の共有や達成のためのアドバイス、フィードバックなどが行われ、社員の成長を後押ししています。

マイスター認定制度

組織における重要かつ不可欠な技能を次世代に継承することを目的として、マイスター認定制度を設けています。マイスター認定者には、継承者への卓越技能の伝承、生産ラインの技能レベルの向上活動などが役割として与えられます。この制度はマイスター認定者の誇りと意欲を増進させ、知の継承だけでなく品質向上およびお客様の満足度向上に寄与しています。

資格取得奨励制度

社員の能力向上、自己啓発の促進のため、資格取得を奨励する資格取得奨励制度を設け、社員の技能やモチベーションの向上を図っています。2019年8月には、現在のビジネスモデルや業務内容に必要な知識および技能を反映させるため対象資格を見直しました。

改善提案制度

業務における様々な問題点や改善点について、各部門で改善提案活動を行い、改善提案委員会で審査の上、優秀な提案については表彰しています。2019年度は1,345件の改善案が提出されました。

社員表彰制度

会社への貢献に報い、さらなる意欲を喚起するため、年1回の社員表彰を行っています。前年度の優秀な成果により会社の業績などに貢献した社員への優良社員表彰や、長年勤勉に職務に精励して社業発展に尽くした社員への永年勤続表彰を行っています。



山本会長と優良社員表彰者

3.4 4.7 8.8

豊かな生活をサポートする福利厚生

竹田印刷では、社員やその家族の方々が豊かで活気ある生活を送ることができるように、様々な福利厚生制度を充実させています。

主な福利厚生



- 社会保険・労働保険
- 選択制確定拠出年金(選択制DC)制度
- 慶弔見舞金制度
- リゾートクラブ・スポーツクラブの法人利用
- 退職金制度
- スポーツ・文化イベントの鑑賞券・招待券の配付
- 従業員持株会制度
- 介護サービス・葬儀サービスの法人利用
- など

4.4 8.5 10.2

人材育成に関する活動

竹田印刷では、様々な人材育成の取り組みにより社員の能力向上やキャリアアップを推進しています。

営業研修、勉強会の実施

営業力の向上を図るための社内勉強会を定期的に開催しています。外部講師のほか、社員を講師とした勉強会を行い、多様化するお客様のニーズにお応えするためのスキルアップを図っています。

新入社員研修

新入社員に対しては、ビジネスマナーなど社会人としての基礎知識を習得する研修を行うとともに、入社半年後のフォローアップ研修では、入社から半年間の自分の成長・失敗について受講者同士のディスカッションを通じて振り返り、現在の課題とこれから目指すべき姿を共有しました。



中堅社員研修

20代後半～30代社員を対象とした「中堅社員研修」を行い、代表者29名がロジカルシンキングと課題解決について学びました。課題解決ワークでは、「竹田印刷の10年後のあるべき姿」実現に向けて、熱い議論が展開されました。研修終了後には、懇親会も開催され、日々の業務のこと、今後の目標、キャリアビジョンなどの情報交換を行いました。



2019年度の主な研修実績

実施月	研修名	研修期間	参加人数	対象者
2019年4月	ビジネスマナー研修	2日	30名	グループ新入社員
2019年4月	新入社員研修	3週間	16名	新入社員
2019年5月	OJT担当者向け勉強会	1時間	20名	OJT担当者
2019年5月	人事評価者研修	1日	109名	管理職
2019年6月	メンター研修	1時間	38名	メンター社員
2019年10月	新入社員フォローアップ研修	1日	30名	グループ新入社員
2019年11月	中堅社員研修	2日	29名	中堅社員

人事評価者研修

管理職の能力向上、組織の活性化を目的として、管理職110名を対象に「人事評価者研修&制度説明会」を実施しました。制度説明会で当社の人事評価制度について理解を深めた後、人事評価者研修で適正な運用と効果的なフィードバック面談の手順、評価の実務などを実践形式で学びました。



面談ロールプレイング

メンター制度

メンター制度とは、若手社員に対し、直属の上司以外の先輩社員が、専属の育成サポート担当となり、面談を通じて若手社員の課題や悩みの解決、仕事上の知識やスキル習得の支援を行う制度です。

竹田印刷においては、新入社員(メンティ)1名に対し、年齢差5歳程度の先輩社員(メンター)1名と、勤続10年程度の中堅社員(シニアメンター)1名の3人一組で、2ヶ月に1回の面談を実施しています。

PICK UP

若手営業社員のプロジェクト活動

20代の若手営業社員を中心に、各事業部の営業本部でプロジェクト活動を行っています。事業部の地域性・お客様の特性に合わせた活動をベースに、組織の枠にとらわれない新たな取り組みで営業活動の活性化を図っています。

これらの活動により、各自のスキルアップや提案活動の最適化を推進するだけでなく、社内コミュニケーションの深化や事業部を越えた交流も生まれています。



3.4 8.8

労働安全に関する基本的な考え方

竹田印刷では、社員の安全と健康に配慮し、労働災害の防止や心身の健康の維持増進に努めています。会社・労働組合から選出の委員、産業医で構成される「安全衛生委員会」を設置し、職場環境の改善・整備や労働災害の防止活動、通勤災害撲滅活動を行っています。

3.4 3.a 5.2 8.8 16.1

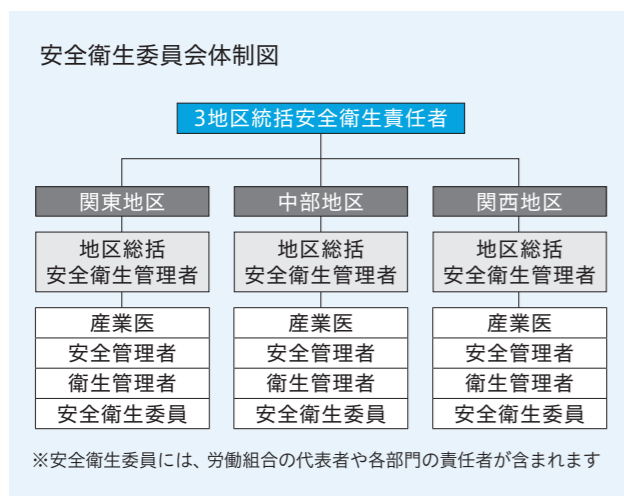
安全衛生への取り組み

竹田印刷は、社員の健康と安全確保を経営の最重要課題の一つと位置づけ、安全衛生管理活動を推進します。各工場にAEDを設置し、安心・安全な職場づくりに取り組んでいます。

- 安全衛生の考え方
- 社員の労働安全衛生を最優先する
 - 全社員の安全衛生に対する理解と意識の向上を図る
 - 全員参加の安全衛生活動を推進する
 - すべての領域で危険要因に対して継続的なリスク低減を図る

安全衛生管理体制

竹田印刷では、労使の代表者による「安全衛生委員会」を毎月開催し、安全衛生活動などの報告・審議を行っています。決議事項は社内イントラなどを利用して社員に周知しています。



各種健康診断の実施

労働安全衛生法に基づく年1回の一般健康診断の受診を徹底し、健診結果に即したフォローアップを行っています。そのほか、該当者への特殊健康診断(有機溶剤取扱者、深夜作業員)を年2回実施し、社員の健康管理に努めています。

インフルエンザ予防接種の実施

社員の健康維持への取り組みとして、インフルエンザ予防接種を推奨しており、各事業部で集団接種を実施しています。

ストレスチェック実施

竹田印刷では安全衛生委員会制定の「ストレスチェック実施内規」に基づいて、2019年11月～2019年12月に社員のストレスチェックを行いました。

メンタルヘルス相談窓口を設置

日常生活における様々な不安や悩みについて、気軽に相談できる窓口を設置しています。外部の専門機関に委託し、プライバシーは厳守しています。相談は無料で、家族の利用も可能です。

ハラスメント相談窓口を設置

竹田印刷は「ハラスメント防止規程」により、パワハラ、セクハラに関する相談・苦情などに対応する窓口を設置しました。専任の担当者がプライバシーの保護に十分努めた上で迅速に対応します。

作業環境の管理

騒音、有機溶剤などの作業環境を定期的に測定し、職場の環境基準を管理しています。特に騒音が発生する職場では、耳栓など保護具の着用を徹底しています。

受動喫煙対策

2020年4月より全面施行の改正健康増進法に対応するため、全社の喫煙室および喫煙スペースの見直しを行いました。場所に応じた措置を取り、望まない受動喫煙の防止を図りました。

交通安全への取り組み

3.6

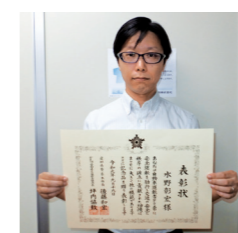
安全運転講習会を実施

2019年11月、業務車両運転者などを対象に損害保険会社の講師による安全運転講習会を行いました。講習では、道路交通法の改正情報(ながら運転の厳罰化など)の説明や実際の事故事例をドライブレコーダーの動画で見ながら安全運転のポイントの解説をしていただきました。講習で学んだ事柄を常に意識して、これからも交通事故防止に努めてまいります。

PICK UP

優良自動車運転者表彰

2019年9月、優良自動車運転者として、中部事業部営業部の水野彰宏さんが愛知県警察本部長と愛知県交通安全協会長の連名による表彰を受けました。



運転適性検査指導者の資格を取得

当社の安全運転管理者が、愛知県安全運転管理協議会の運転適性検査指導者資格講習を受講し、運転適性検査指導者の資格を取得しました。

「運転適性検査」は、運転者個人の性格などを心理的側面から捉えて、安全な運転行動を促す手段として行うものです。2020年4月には新入社員研修の一環として21名の新入社員を対象に運転適性検査を行いました。



運転適性検査を受ける新入社員

3.4 11.5

災害防止への取り組み

機械・設備の安全対策

機械による災害は、機械とそれを操作している作業員などが関連して発生します。危険領域には安全装置を設置し、定期的な検査およびメンテナンスを行うことでリスク低減対策を実施しています。

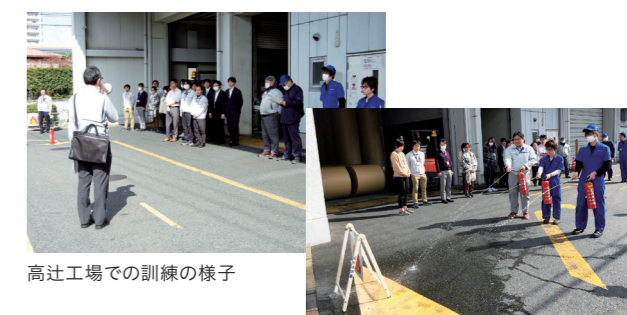
避難訓練の実施

避難訓練は事業部ごとに行っています。本社・中部事業部では、2020年2月、就業時間内に高辻工場から出火したという想定で訓練を行い、各職場から工場西側トラックヤードに避難しました。

関西事業部では、オフィスを構える信金中央金庫ビルの自衛消防訓練に参加し、屋外階段で1階へ避難しました。また、太田工場では常勤従業員で工場内での火災発生を想定した消防訓練を実施しました。

消防点検の実施

専門業者による消防設備の点検を年2回実施し、点検結果を定期的に消防署へ報告するとともに、不具合を改善することで緊急事態発生への対応を図っています。



高辻工場での訓練の様子

3.4 8.5 8.8

労使協調による課題の解決

竹田印刷と竹田印刷労働組合は、相互の理解と信頼に基づき健全で良好な労使関係を構築しています。互いの立場を尊重しながら、労使協議会、安全衛生委員会などを定期的開催し、経営諸課題や労働条件に関する率直な意見交換を行っています。

人権

ダイバーシティとワーク・ライフ・バランス



ダイバーシティでは、性別・年齢・障がいなど問わず、多様な人材が持てる能力を発揮してイキイキと働ける環境づくりを目指し、制度や意識改革に取り組んでいます。ワーク・ライフ・バランスでは、仕事とプライベートや育児・介護などを両立できる働き方や社員や家族とのコミュニケーション機会を増やす体制づくりに取り組んでいます。

5.1 5.5 8.5 10.3 16.b

ダイバーシティの推進

竹田印刷では、性別や年齢を問わず、すべての社員が能力を発揮し、やりがいを持って働くことができる「全社員総活躍企業」を目指し、ダイバーシティを積極的に推し進めています。

障がい者雇用の状況

竹田印刷では、障がいを持つ方々に多様な個性や能力を活かして、様々な職場で活躍をしていただいています。今後も法定雇用率の達成を目指しながら、障がいを持つ方の社会的自立を支援することを目的に、障がい者雇用に取り組んでいきます。

定年退職者再雇用の状況

長年の経験やこれまで培われた技術や能力を、次世代へ継承するため、竹田印刷では定年退職者の再雇用制度を整えて活用しています。本人が希望し、健康な心身や意欲などをもち、一定基準に適合した「人材」の方に、今後も活躍していただく環境を提供していきます。

女性の活躍推進

女性のキャリア開発を目的とし、外部講師や他社ロールモデルの方のセミナーを開催しています。参加者同士のディスカッションや交流を通し、キャリア開発に意欲的に取り組むヒントを得る機会としています。

育休中社員復職支援交流会を開催

育休明け社員の復職支援の一環として、復職時面談と先輩社員との交流会を開催しています。復職後の働き方やキャリア形成、利用できる制度について話をすることで、育児休業からのスムーズな職場復帰を支援しています。



3.1 3.2 3.4 4.2 5.4 5.b 8.5

ワーク・ライフ・バランスの推進と支える制度

すべての社員が仕事とプライベートの両立をしながら、やりがいを持って働き続けられる職場環境の整備を進めています。業務にメリハリを持って、「長時間労働を是正しながら成果を生み出すことのできる生産性の高い働き方(スマートワーク)」を推進し、仕事とプライベートの質向上と生産性向上の両立を目指しています。

ノー残業デーの拡大

毎月第3水曜日に実施していた「ノー残業デー」を、2019年1月より月2回の実施へと実施日を拡大しました。また、過重労働による健康障害を防止するため、深夜残業については本人の事前申請と上長の事前承認により歯止めをかけています。

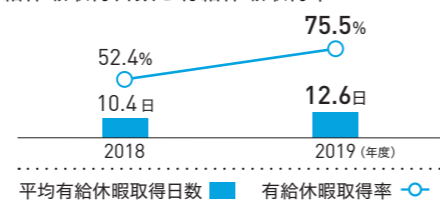


ノー残業デー啓蒙ポスター

年次有給休暇の取得促進

「年休取得日」「メモリアル休暇」を設定し、有給休暇の取得を促進しています。

■ 平均有給休暇取得日数と有給休暇取得率



ウェルカムバック制度

育児・介護などに伴うやむを得ない事情や、留学などのキャリアアップを理由に一度退職した社員を優先的に再雇用し、それまでに培った経験やスキルを活かして再び活躍していただく「ウェルカムバック制度」を導入しています。

過去に習得した知識とスキルを有する人材の確保というメリットのほか、社員の多様化に柔軟に対応できる支援策の一つと位置付けています。

男性の育児休業取得促進

「育児休業規定」を改訂し、育児休業の最初の5日間を有給としたほか、配偶者が出産を控えた男性社員とその上司に人事部より制度説明し、育休取得を促しています。

2019年度は2名の男性社員が育児休業を取得しています。

介護休業制度

介護が必要な家族がいる社員に対して、介護離職を防止し、仕事と介護の両立を可能とするための制度を整備しています。

スマートワークの推進

社員の生産性を最大化することを目的に、ITを活用したスマートワークの推進を行っています。ICT(情報通信技術)を活用したモバイルワークや遠隔でも映像や音声でコミュニケーションを取ることが出来るオンライン会議の運用で働く時間や場所に柔軟性を持たせています。

テレワーク勤務規程の新設

多様で柔軟な働き方を可能とするスマートワークを拡大するため、従来の「在宅勤務規程」を見直した「テレワーク勤務規程」の新設準備をしています。モバイルワークのテスト運用を実施してリスクを洗い出し、執務場所のリスクアセスメントを行って情報セキュリティ対策を強化しています。なお、この規程は2020年度から正式運用される予定です。

両立支援ハンドブック発刊

休暇制度をはじめ、病気や介護・育児といった様々な事情が発生した際に利用できる、仕事と生活の両立を支援する各種制度を分かりやすくまとめた両立支援ハンドブックを発刊し、社員それぞれのキャリアプラン、ライフプランの立案に活用しています。



VOICE

育児休業取得者の声

私は、第2子が生まれて約1か月の育児休業を取得しました。期間中には、生まれたばかりの娘の世話や、長男の保育園送迎、公園遊びなど、家事と育児に奮闘しながらも、子供たちが日々成長する様子をを感じる機会となりました。

第1子の時は、なかなか子育てに参加できず妻に任せっきりになってしまっていたのですが、今回改めて子育てをしながら働くことの大変さを感じました。

職場の理解やサポートのおかげで取得することができましたが、共働き世帯の多くは、子育ての大半を女性に委ねてしまいがちです。もっと多くの男性社員がいろいろな制度を活用し、積極的に育児参加をすることが当たり前の企業風土と働き方改革が進んでいけばと思います。



中部事業部 営業本部 営業第1部1課
2008年4月入社
名倉 太一



女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画をホームページで公開しています。
ホームページアドレス https://www.takeda-prn.co.jp/csr/effort/takeup/pdf/project_02.pdf

仕事とプライベートの両立支援制度一覧

育児関連	産前・産後休業	原則・産前6週間と産後8週間	介護関連	介護休業	通算93日まで分割取得可能。また、場合により延長可能	
	配偶者出産休暇	配偶者が出産する際、出産日前後10日以内で、2日間の休暇取得が可能(年次有給休暇とは別の特別休暇)		介護短時間勤務	介護休職とは別に最長3年間取得可能(30分単位で1日2時間まで短縮可能)	
	育児休業	子が1歳6ヶ月に達した直後の4月20日、または2歳までのいずれか長い方で取得可能(3ヵ月以内の休業の場合、最初の5日間は有給)		介護休暇	年次有給休暇とは別に1年間に5日(対象者が2人以上の場合は10日)特別休暇を付与。半日単位の取得も可	
	育児短時間勤務	子が小学校3年生修了時まで可能(30分単位で1日2時間まで短縮可能)		フレックス勤務	所属部長への申請により利用可	
	所定外労働の免除	子が小学校1年生修了時まで可能		柔軟な勤務の実現	勤務間インターバル	勤務終了時刻から、次の勤務開始までの間に原則として10時間の休息時間を確保
	深夜勤務・時間外労働の制限	子が小学校3年生修了時まで可能			テレワーク勤務	育児中、療養中社員の在宅勤務や営業職のモバイル勤務など順次利用拡大中
	子の看護休暇	年次有給休暇とは別に1年間に5日(子が2人以上の場合は10日)特別休暇を付与。半日単位の取得も可 子が小学校3年生の修了時まで取得可能			ウェルカムバック制度	勤続3年以上で、育児・介護などのやむをえない事情で退職した者を優先的に再雇用する(退職後10年以内)
	出産祝い金制度	出生児1人につき30,000円を支給			メモリアル休暇制度	本人、家族の記念日に休暇取得が可能(有給休暇)

3.4 5.4 8.5

外部認証の取得

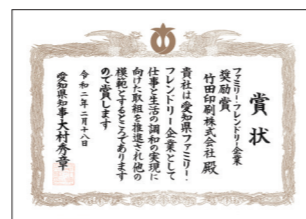
「あいち女性輝きカンパニー」優良企業表彰

「あいち女性輝きカンパニー」認証企業[※]の中から、特に積極的な取り組みを推進し、他の模範となる企業として選定されました。
 ※愛知県が、女性の採用や管理職登用の拡大、働きやすい職場環境づくりなど、女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業を認証。(2019年10月1日現在 認証企業数：577社)



愛知県 ファミリー・フレンドリー企業表彰「奨励賞」受賞

「愛知県ファミリー・フレンドリー企業表彰」において、従業員の仕事と生活の調和を図るため、育児、介護、労働時間短縮、その他働きやすい職場環境づくりなどのうち個別の分野で、他の模範となる優れた取り組みを推進し、その成果を挙げている企業として「奨励賞」を受賞しました。



外部認証取得実績

竹田印刷は、これまでの諸制度の整備や活動実績が認められ、下記自治体の認証を受けています。

2017年	愛知県 あいち女性輝きカンパニー 認証
	大阪市 女性活躍リーディングカンパニー 一つ星 認証
	大阪府 男女いきいき・元気宣言 事業者登録
2018年	名古屋市 女性の活躍推進企業 認定

2019年	大阪府 男女いきいきプラス 認証
	愛知県 あいち女性輝きカンパニー 2019年度優良企業表彰受賞
	愛知県 ファミリー・フレンドリー企業表彰 令和元年度「奨励賞」受賞



公正な事業慣行

サプライヤーの皆様とともに



高品質な製品を提供するためにはサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。サプライヤーの皆様とは対等で公正な取引のもと、技術・情報の相互交流などによる信頼関係を基本として良好なパートナーシップを構築し、品質向上・環境対策・コスト削減といった共通の目的・目標に対して改善策を推進して共存共栄を目指しています。

4.4 8.5 16.5 17.16

サプライヤーの皆様との関係

竹田印刷の事業活動および社会的責任の遂行には、お取引いただいているサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。紙・インキ・フィルムなどの資材や印刷機器、印刷・製本加工などを取り扱う様々なサプライヤーの皆様との間で、当社は「CSR調達ガイドライン」を定めています。

この調達ガイドラインには「コンプライアンスの順守」「基本的人権の尊重」「環境保全」「安全衛生」「適切な情報管理」「QCDと顧客満足の上昇」「腐敗防止」の7つの項目を設定しており、サプライヤーの皆様にご協力いただくよう

をお願いしています。また、調達ガイドラインに基づき、「購買および外部提供者管理規定」を設け、公正に審査・選定・管理をし、適正な購買・取引を行うよう努めています。

また、第三者の知的財産の不正な入手・使用、権利の侵害を行わないよう「素材ダウンロードサービス利用マニュアル」を作成し、事前にチェックする仕組みを構築しました。外部デザイナーの皆様に対して、運用ルールを説明し、知的財産権に対する注意喚起を行っています。

17.17

サプライヤー様懇談会

2019年11月、関西事業部において、サプライヤー様(制作・印刷・加工・物流)26社26名の方々に参加頂き、2019年度の「サプライヤー様懇談会」を開催しました。

最初にCSRレポート2019を活用して当社のSDGsへの取り組みを説明し、続いて品質不適合についての傾向、対策および是正の説明を行いました。その後、参加各社の独自性(強み)の説明や情報交換を実施し今後の協力体制の確認をしました。



17.17

サプライヤー評価

当社への納入品の適正な品質を確保するため、サプライヤーの皆様に対しては、対応、コスト、品質、情報セキュリティ体制などに関して年1回チェックシートを使った評価を実施して、当社の基準を満たしていることを確認しています。

また、必要に応じ品質管理部門や発注部門がサプライヤー様を訪問して現地での工程監査を行い、業務の見直しや改善要望を提示、情報セキュリティ体制に関しては、当社の確認内容を説明し、実施を依頼しました。

サプライヤーの皆様のご品質管理は、当社の品質管理の一部と考え、これからもサプライヤーの皆様とともに品質向上に取り組んでいきます。

CSR 調達ガイドライン

竹田印刷グループとそのサプライヤー・パートナーは、以下の事項を順守し、企業の社会的責任(CSR)を果たしていきます。

- コンプライアンスの順守**
 - 会社法や、下請法、環境関連法規など、事業活動に適用される法令や社会規範を順守する。
 - 特許権・著作権・商標権など第三者の知的財産権を侵害しない。
 - 反社会的な組織とは取引を行わない。
 - 自由な競争を阻害する行為や不正な競争行為を行わず、公正な事業活動を推進する。
- 基本的人権の尊重**
 - 従業員に対する機会均等、差別の撤廃、ハラスメント行為の禁止、及び人権への配慮を行う。
 - 児童労働・強制労働などの非人道的な労働行為を防止し、決して行わない。
 - 従業員に対し適切な賃金の支払いや労働時間管理を行い、雇用の安定をはかり雇用主の義務を果たす。
 - 従業員が保有する権利を認識し尊重する。また、労使間のコミュニケーションを図る機会を設ける。
 - 公益通報者保護法を順守し、内部通報者の権利を保護する。
- 環境保全**
 - すべての製品と製造工程で、法令等で指定された化学物質を管理(使用制限や表示など)する。
 - 廃棄物の処理を、最終処分まで環境関連法規等の法令・条例などを順守し適切に管理する。
 - 環境負荷の少ない原材料、資材、事務用品などを優先的に購入する。
- 安全衛生**
 - 誰もが安心して働ける安全・健康な職場づくりを進め、人体へ有害なものには適切な対策を講じる。
 - 事故、災害の未然防止に努め、機械などへは十分な安全対策を講じる。
- 適切な情報管理**
 - 取引を通じて得た個人情報や機密情報は、従業員教育を含めて情報流出の防止を徹底する。
 - 事業活動内容、品質及び製品の安全性などに関わる情報の適時・適切な開示に努める。
- QCDと顧客満足の上昇**
 - 常に要求水準を満たし、品質の向上に努めるとともに、ミスやクレームを防止する。
 - 市場競争力のある価格で製品・サービスを提供する。
 - 製品・サービスを定められた納期に、安全・確実に供給する。また、不測の事態においてもそれらを提供できる対策を講じる。
- 腐敗防止**
 - 贈収賄、汚職、不適切な利益の供与・受領、強要、横領などを禁止し、これらの行為を防止する。

コミュニティ

地域社会とともに



竹田印刷が持続的に事業活動を行うには、地域社会との信頼関係の構築が重要であると考え、良き企業市民として社員一人ひとりが社会活動に取り組んでいます。安心・安全な地域社会づくりのための地道な地域貢献活動を継続的に続けることで、地域の皆様との交流を深め、信頼を築いています。

4.4 9.5

名古屋少年少女発明クラブ支援

「名古屋少年少女発明クラブ」は、ものづくり愛知・名古屋における次世代産業を担う人材を育成するために、小中学生を対象にデリバリー方式でのものづくり教室や、拠点となる名古屋市科学館で各種工作教室などを開催しています。

竹田印刷は、2007年のクラブ設立当初から趣旨・活動に賛同して支援しており、今後も次世代を担う産業界の人材育成へ協力していきます。

4.2

文化・教育イベントに貢献

竹田印刷は、2019年4月に地方美術館で行われたデジタルアート展覧会を当美術館、地元新聞社、地元テレビ局と共催し、大勢の方にご来場いただきました。

また、7・8月には地方百貨店で行われたデジタルアート展覧会を当百貨店と共催しました。教育的プロジェクトとして開催されたこのイベントは、子どもから大人まで楽しめるもので、ご好評をいただきました。

今後も、文化・芸術および教育の発展や向上に寄与する様々な活動に取り組んでいきます。

17.17

地域のプロスポーツチームに協賛

東海圏を本拠地として活躍しているバスケットボール・サッカー・バレーボールといったプロスポーツチームに協賛しています。協賛活動を通じて、竹田印刷は地域社会活性化の一助を担っています。

また、福利厚生の一環として社員へ試合のチケットを配布するなど、さらなる認知の向上にも努めています。今後も協賛活動を続け、ますます東海圏のスポーツチームを盛り上げていきます。

8.6

インターンシップ(就業体験)受け入れ

各学校からのご依頼のもと、就業体験(インターンシップ)を実施しています。これは採用を目的としない教育活動の一環として行っており、2019年度は高校・専門学校・大学などから7名の受け入れを行いました。製造や制作の現場での業務体験に加え、情報管理に対する意識や、社会人として必要な考え方・姿勢などについて社員から学んでもらいました。

3.3 3.4

名古屋第二赤十字病院へ寄付

竹田印刷では社会福祉事業の一環として、本社と同区に所在する「名古屋第二赤十字病院」へ地域医療活動の支援を目的に毎年寄付金の贈呈を行っています。

同病院は1914年に開設し、赤十字病院として災害医療や国際医療救援に取り組みながら、地域医療にも力を入れている総合病院です。

当社は同病院の高度で良質な医療活動とその取り組みに対して、1995年以来、毎年支援を続けており、日本赤十字社から感謝状をいただいています。



感謝状

6.b 11.7

周辺清掃・地域清掃

毎月1回、会社周辺の清掃活動を行っています。特別養護老人ホームや幼稚園が近隣にあるところでは、その周辺にも力を入れ、街の環境美化に取り組んでいます。



会社周辺清掃の様子

環境

環境活動



紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、事業活動における環境負荷低減と限りある資源確保に努めています。また、生物多様性および生態系の保護を含めた環境保全のため、原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などについて、TMS(竹田マネジメントシステム)の活動として管理し、環境汚染の予防に努めています。

マネジメントシステムの状況

6.3 7.3 8.4 9.4 11.6 12.4 13.3 14.1 15.2

監査の状況

マネジメントシステムが適切に運用され、維持されていることを確認するため、「内部監査規定」を定め、定期的に内部監査を行っています。内部監査は原則として年2回行っていますが、重要な工程が変更となるなど、統括監査責任者(P.8 TMS組織体制図参照)が必要と認めた場合には臨時に実施することになっています。

また、内部監査員に対しては毎年1回研修会を実施し、監査基準の徹底とレベルアップを図っています。

内部監査の監査結果状況

2019年度の内部監査の結果、全社合わせて「不適合」67件と「観察事項」や「改善の機会」として127件の指摘がありました。すべて直ちに是正処置を取り対応しました。

内部監査の傾向としては、日常業務に沿った運用の確認が重要視されるとともに、指導的コメントが増えて改善向上型の活動になっています。また、事業部を超えたクロス監査を実施し、全社的なレベルアップを図っています。

外部審査の審査結果状況

外部認証機関(インターテック・サーティフィケーション株式会社)による維持審査を行いました。

審査の結果、全社合わせて「観察事項」18件と「改善の機会」7件の指摘がありました。指摘いただいた項目には、様々な内容のものがありますが、審査員の言葉から読み取った指摘事項を含め、すべてに是正処置を取り改善しました。

4.4 13.3

全社員教育の状況

TMS(竹田マネジメントシステム)の効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育を行っています。

- マネジメントシステムに対する認識を向上させる教育とともに、コンプライアンスの意識を高めリスクを回避するための教育を行っています。
- テキストでの教育の後、理解度テストを行うことで教育効果を確認し、「教育実施記録」を保持しています。

2019年度の主な教育実施内容

- ISO14001 環境側面・環境影響
- ISO27001 情報資産・事故発生時の対応
- 個人情報保護 個人情報一覧・考えられるリスク
- ISO規格 支援 インフラストラクチャ・必要な力量
- ISO規格 支援 コミュニケーション
- コンプライアンス 日常業務で起こりうるコンプライアンス違反
- UNGC・GCNJ・SDGsの基礎 ゴールとターゲット
- SDGs SDGコンパス
- SDGsとTMS 優先課題
- FSC®(CoC) 認証のしくみと当社の運用ルールの再確認

環境保全の状況

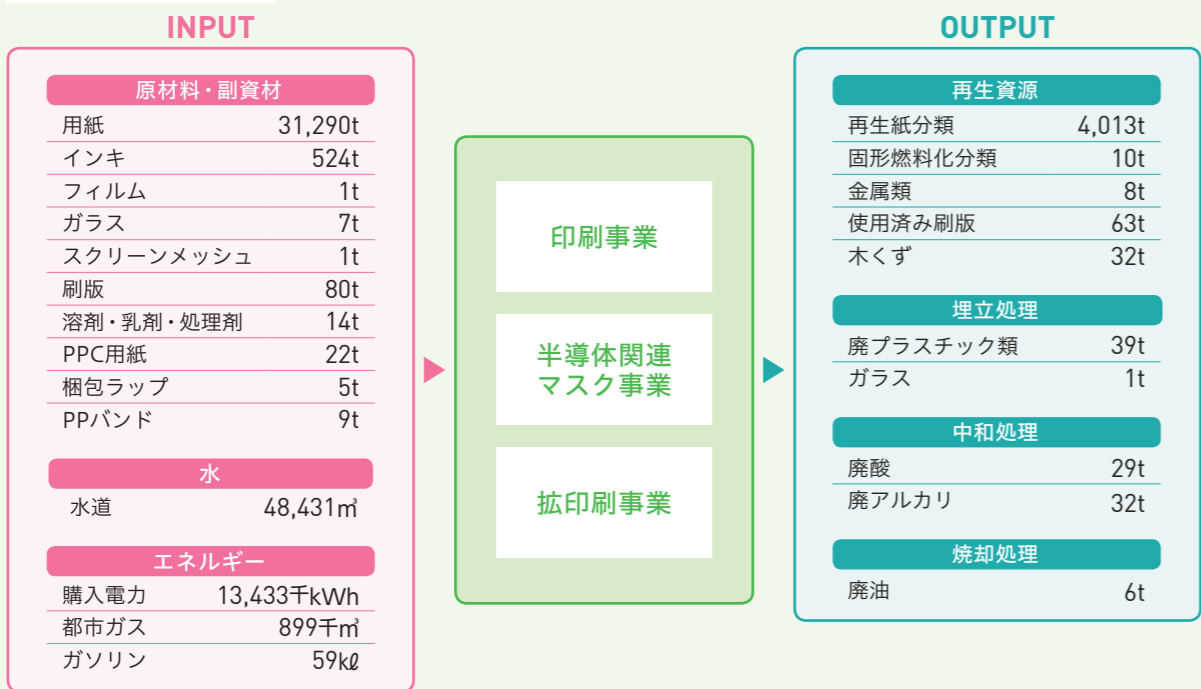
3.4 6.3 7.3 11.6 12.5 14.1 15.2

法規制の順守

竹田印刷では、環境に関する法規制を順守し環境汚染をできる限り少なくすることは企業の重要な責務との認識のもと、法的要求事項への対応実施・維持の状況を順守状況一覧表によりチェックし、順守の徹底を図っています。また、環境関連法令に従い、必要に応じて管理者を設置し、管理報告を行っています。2019年度における環境関連法令違反、環境問題を引き起こす事故・汚染、環境問題に関する苦情は発生していません。

環境負荷の全体像

< 事業活動における2019年度の資源投入と環境への排出 >



6.1

取水によって著しい影響を受ける水源

竹田印刷は、事業を行う上で必要な水をすべて「水道」から取水し使用しています。地下水の揚水はなく、当社の

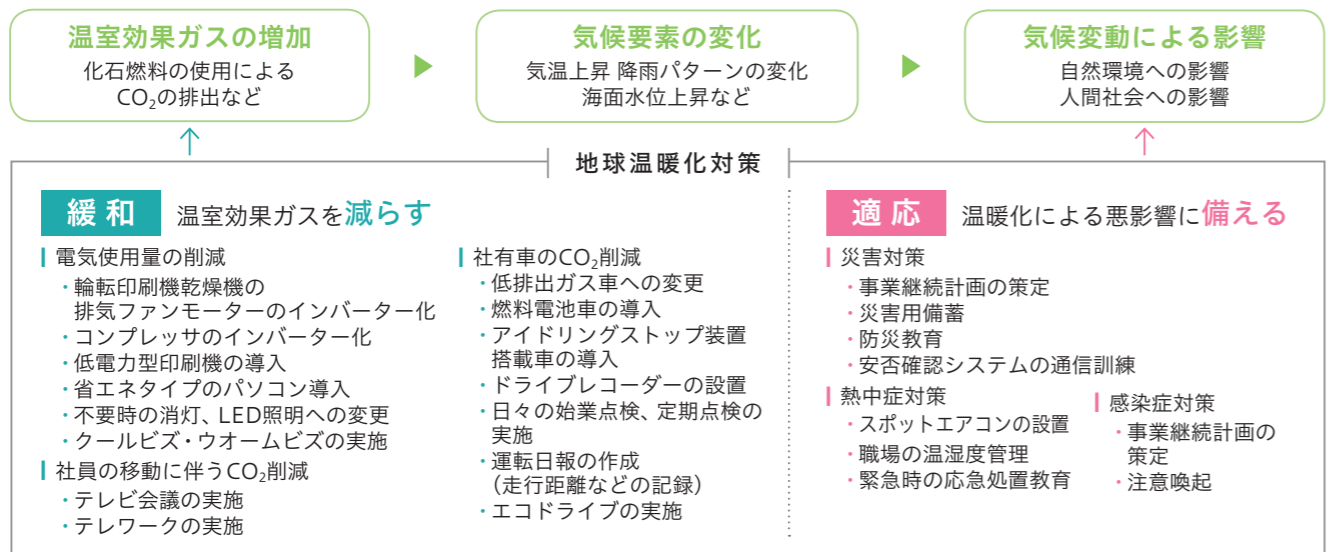
事業活動における取水によって著しい影響を受ける水源はありません。

3.9 7.3 8.4 12.2

気候危機への対応

地球温暖化は、気温を上昇させるだけでなく地球全体の気候を大きく変える「気候変動」を引き起こします。そして気候変動が要因となつての集中豪雨や異常な高温がもたらす多くの人的・物的被害は、日常生活に多大な影響をもたらし、その深刻さから近年は「気候危機」という言葉も使

われるようになりました。竹田印刷は、経営理念「Hard+Soft+Heart」を達成するためにも、温暖化への対策が重要であると考え、具体的な取り組みを進めています。



地域の環境保全条例と政策への対応

竹田印刷は、各地方自治体の条例に基づき、地球温暖化対策に関する計画書などを作成し、各地方自治体に提出しています。

環境保全活動の推進

化学物質管理

竹田印刷は、環境マネジメントにおける化学物質などの管理に関し必要な事項を「化学物質リスクアセスメント規定」に定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による危害防止、火災予防、労働災害の防止ならびに廃棄物の拡散防止に努めています。

排出ガスの予防策と測定状況

大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置は、定期的に年2回の排出ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。

また、東京都環境局が推進する「Clear Sky サポーター」に登録し、大気環境の改善に向けた取り組みを進めています。



工場排水処理策と測定状況

水質はPH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、金属含有量、有害物質などの項目を定期的に年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理しています。

緊急時への準備対応

事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏えい(大気・水系・土壌)など」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染など)を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中で、予防・初期処置および対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動などについて定めています。

騒音・振動の予防策と測定状況

騒音・振動を防止するために、印刷工場は建築設計の段階から二重壁・二重窓構造にし、内壁には吸音材を使用した防音対策を施しています。また、振動を防ぐ振動防止対策基礎設計の建築となっています。

騒音の測定記録については、時間率騒音レベルを求めた結果、全時間帯において規制基準値を下回りました。

廃棄物の管理・運営

事業活動の中で発生する廃棄物を適正に処理するため「環境側面特定管理規定」を定めています。廃棄物は、それぞれ種類別に保管し、管理方法を決めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。

また、年に1回以上は、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、廃棄物の処理が適正に行われているかどうかを目視により確認しています。



現地立ち入り調査

2019年度事故・緊急事態

2019年度における事故・緊急事態は発生していません。また、重大な漏出、有害廃棄物の輸送、事業活動での排水や表面流水によって影響を受ける水域はありません。



訓練の様子

事業活動における環境対応

3.9

水なし印刷

通常のオフセット印刷では、版の非画線部ヘインキが付着しないように、「湿し水」と呼ばれる水溶液を使用します。しかし、湿し水には、IPA(イソプロピルアルコール=VOC揮発性有機化合物)や、H液(グリコールエーテル系の化学物質を含む)などの有害物質が多く含まれています。

それに対して水なし印刷は、非画線部にインキをはじく特性を持つシリコン層を使用することにより、有害な湿し水を全く使用せず印刷を行うことができるので、廃液を出さず、環境に配慮した印刷方式といえます。2019年度には、

この水なし印刷方式で12件の印刷物を製作しました。



水なし印刷機



水なし印刷方式を用いた印刷物には「バタフライマーク」を表示できます。

12.5

オンデマンド印刷の提案

通常のオフセット印刷は部数の多い印刷に適しているのに対し、オンデマンド印刷は少数の印刷に適しています。そのため、過剰在庫により発生する廃棄のムダを削減することができます。また、オンデマンド印刷はオフセット印刷の

ような版が不要で、環境負荷の少ない印刷方式です。必要なものを、必要な時に、必要な数だけ、余分な印刷物を生産しないことで環境負荷の低減を図ります。

14.1 15.2 15.4

グリーン購入・グリーン調達

環境活動を効果的に行うために、原材料、副資材などの購入、設備機器の導入などの際には環境に与える影響を削減するように配慮しています。また、グリーン購入を推進することは、環境負荷の低減はもとより、社員が環境へ配慮した行動を行うきっかけとなっています。

12.2 12.4 12.5

グリーンプリンティング

この認定制度は、社団法人日本印刷産業連合会が認定機関となり、『日印産連「印刷サービス」グリーン基準』に基づき、印刷資材、製造工程、会社の取り組みすべてに対し、第三者からなる認定委員会によってグリーンプリンティング認定を行う制度です。

竹田印刷では、本社工場、高辻工場の2工場が、総合的に環境に配慮する印刷工場として、グリーンプリンティングの認定を受けています。またデジタル印刷工程も対象として、より多くの環境配慮型印刷製品に取り組み、今後も環境負荷の少ない印刷製品作りを推進していきます。



7.2

カーボン・オフセット

竹田印刷では、原料調達段階から、印刷、廃棄リサイクルの工程で発生するCO₂をカーボン・オフセットするため、温室効果ガスの排出量を算定できる仕組みを構築しています。今後も企業価値の向上と地球温暖化への対応としてお客様に強くアピールしていきます。

竹田印刷の認定状況

15.2 15.4

FSC®森林認証

竹田印刷では2004年8月に、Forest Stewardship Council®(森林管理協議会)の森林認証制度において生産・加工・流通工程の管理認証(CoC認証: Chain of Custody)を取得しました。これにより、商業印刷物のCSR/社会環境報告書、会社案内、カタログなどにFSC森林認証取得の用紙を使用した場合、FSC CoC認証マークを表示することができます。2019年度には243件の印刷物に表示しました。



第三者意見

高い水準の取り組みが感じられる

竹田印刷さんは、ISO認証取得に示されるように、経営戦略の意味を考え、水準の高い取り組みを企図していることがうかがえます。

情報産業とも言える印刷業にとって情報セキュリティは欠かせません。また、顧客の評価を得るためには品質はもちろん、環境も必須項目です。必須項目は認証に基づきしっかり取り組む必要があります。情報セキュリティ上の事故がないなどの成果を上げています。

このような取り組みを支えるのは社員であり、社員の働きやすさやモチベーションの向上は収益につながり、株主の期待に応えることにもなります。そこで育児休暇取得データを拝見すると男性も毎年取得者がおり、しかも100%の職場復帰となっています。その結果、愛知県の表彰も受けています。さらに生産性改善やイノベーションをもたらすダイバーシティは、現代における重要な経営戦略です。

社員の参画意識を促すとともに、製品や業務の品質に直結する改善提案制度も良い制度だと思います。

時代に沿ったSDGsへの対応

特筆すべきは、これらがSDGsに結びつけられていることです。しかも、169のターゲットや244の指標(重複含む)が意識され、目標の達成いかんも開示されています。SDGsを高度に理解していることも分かり、時代に沿った情報開示だと感じます。

しかも、これらが経営理念やビジョン、そのための方針に裏打ちされていることが、P.2-3のビジネスモデルと思われる図やP.6-7の経営層の言葉から分かります。「CSRは経営理念に基づいた体系を成す」ことを理解していると言えます。

今後への課題

P.5のデータを見ると総エネルギー投入量やCO₂排出量は減っていますが、売上や経常利益も低下しており(P.4)、効率化や環境保全の取り組みの成果とは言いづらい状態です。

ワークライフバランス関連では、2割強の女性社員に対して、女性管理職率が5%程度に留まっていることも気になります。

また今後、それぞれの活動と経営戦略をより密接に関連付けるために、以下のような項目を改善されると良いと考えます。

P.2-3の図はビジネスモデルに近いもののCSRの析出や自己評価が反映されず、個々の取り組みの戦略上の比重や相互連関が見えません。つまりステークホルダーのニーズがどのようであり、それに基づくCSRがいかなる社会的意義と経営的意味を生み、経営の継続につながるのかが分かりにくいと感じます。

そのため、SDGsの表やデータのページでは取り組みの結果(社会的意義)が示されていますが、経営戦略的意味を含めての自己評価ができていない印象を与えています。また、各ページが取り組みの羅列に見えます。例えば、ワークライフバランスの取り組みが社員満足を促しているのか、そして顧客満足につながっているのかが分かるか良いと思います。

それぞれの取り組みを経営戦略としてPDCAサイクルに乗せ、それをCSR報告書に反映させるよう検討していただくことを期待します。



かげやま まこや
影山 摩子弥 氏
横浜市立大学国際教養学部教授
CSR&サステナビリティセンター長
専門は、経済原論、経済システム論、地域CSR論。主著に、『なぜ障がい者を雇う中小企業は業績を上げ続けるのか?』(中央法規出版)など多数。

■ 第三者意見を受けて

影山先生には貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

2019年度は、竹田印刷が国連グローバル・コンパクトに署名しSDGsへ本格的に取り組む初年度となりました。中でも、ダイバーシティやワーク・ライフ・バランスへの取り組みは、自治体の認証を取得するなど目に見える成果が得られました。

一方で、影山先生のご指摘にある通り私たちの取り組みをPDCAサイクルに乗せ、報告書に反映させる工夫については改善すべき点があります。ご指摘いた

きました、ステークホルダーのニーズへの対応、経営戦略へのSDGsの組み込みなどについてはさらなる努力が必要であると受け止めております。

今回のご意見を参考にして、竹田印刷グループの「Hard + Soft + Heart」という企業理念のもと、ステークホルダーの皆様へ、よりご理解を深めていただける事業活動の報告となるよう努めてまいります。

取締役
経営統括本部長
細野 浩之